



SENKO

CSR報告書

環境・安全・社会への取り組み

2009

02 ごあいさつ

経営とCSR

- 03 **センコーの事業概要**
センコーの主力3事業／会社概要／主要サービス／国内拠点／海外拠点／センコーグループ事業データ
- 05 **企業目標とCSR方針**
社会から信頼されるセンコーであるためにー／社是／中期経営計画／「CSR経営」推進体制／CSR推進組織
- 07 **コーポレート・ガバナンスとコンプライアンスについて**
コーポレート・ガバナンスの考え方と体制／コンプライアンス経営／危機管理体制の構築／個人情報の保護

特集

- 09 **特集 1 地球温暖化防止への積極的推進**
- 11 **特集 2 クレフィール湖東での安全・環境教育活動**
- 13 **特集 3 法令遵守企業を目指す、内部統制への取り組み**

環境活動報告

- 14 **環境基本方針** 環境との調和と共生を目指して／環境基本方針／環境推進体制／環境マネジメントシステムの推進
- 15 **センコーの環境目標と成果** 第Ⅲ期「環境マスタープラン」／センコーの環境目標と成果
- 16 **環境影響の全体像** CO₂排出状況について
- 17 **地球温暖化防止への取り組み** CO₂排出量削減への取り組み
- 18 **物流効率化への取り組み** グリーン物流パートナーシップへの取り組み
- 19 **環境関連法令・規制への対応** 省エネ法への対応／自動車NOx・PM法及び関連法規、条例等への対応
- 20 **環境認証取得の状況** ISO14001認証取得への取り組み／グリーン経営認証の推進

安全活動報告

- 21 **安全活動方針** 全てに優先する「安全」の維持に向けて
- 22 **安全目標** 独自の「安全マネジメントシステム」を構築
- 23 **安全管理への取り組み** 日常の安全活動の取り組み／安全関連法令の遵守対応
- 24 **充実の安全教育** 「強い現場」・「卓越した現場」をつくる人材教育体制
- 25 **安全活動の評価・達成状況** 「外部」からの評価・表彰／安全品質・技能向上の取り組み

社会性報告

- 27 **働きやすい職場、豊かな地域社会を創造**
快適な職場環境の創出／「快適職場推進計画」の認定取得を継続／事業所内保育園の設置／カフェテリアの設置／健康管理活動の状況／女性躍進・推進計画
- 29 **地域での社会貢献活動**
「子ども交通安全教室」の開催／地域清掃活動を実施／小学生の社会見学、中・高生の職場体験受け入れ／クレフィール湖東での社会貢献活動

編集方針及び報告の範囲

センコーは、2005年度より3回「環境・安全報告書」を発行してきました。2008年度よりCSR推進委員会を新設し、従来より経営の最重要事項と位置づけていました「環境保全」「交通安全対策」を含めたCSR活動の取組領域を明確にしたことを契機に「CSR報告書」として発行しています。

その編集方針は次の通りです。

- (1) センコーの特徴的なCSR活動を「特集」として紹介しています。
- (2) 記載対象範囲は、センコー株式会社ならびに一部グループ会社の活動も含まれます。
- (3) 記載対象期間は、2008年4月～2009年3月までの事業活動ですが、一部2009年4月以降のものも掲載しています。
- (4) 環境の報告は、環境省の「環境報告ガイドライン(2007年版)」を参考にしております。

Message

ごあいさつ

センコーグループのCSR活動は、「適法性と透明性を確保した倫理観の高い組織づくり」を行い、同時に全ての役員及び従業員が「公共性の高い事業に携わっているとの認識を深め、本業を誠実に全うすることを通じて社会への貢献を追求する」との基本姿勢に基づき推進しております。

現在取り組みを進めております中期経営計画においても、CSRの強化として「企業の社会的責任の完遂」「環境保全への貢献」「安全品質の向上」をテーマに掲げ、「法令遵守企業」「環境対応企業」「安全重視企業」の3つをCSR経営の柱と位置づけ、社会との共生を図りながら持続的な発展を目指しています。

2008年度は、北海道洞爺湖サミットの開催、京都議定書の第一約束期間の適用開始等これまでも増して地球温暖化問題を中心として「環境」への関心が高まった年になったと感じております。また、企業の不祥事が多発する状況を背景に、企業活動がもたらす社会への影響力の大きさにより、企業の社会的責任への関心が世界的に高まっており、2010年には、あらゆる組織が適用可能な社会的責任(SR)に関する国際規格ISO26000が発行される見通しです。

これまで当社グループは、物流企業として公共の道路や地域の皆様の生活の場を事業活動で利用させていただいていることから、「環境保全」「交通安全対策」を経営の最重要事項と位置づけ、社会的使命として徹底してきました。

環境保全の取り組みは、デジタルタコグラフの装着によるエコドライブの徹底、低公害の車両・荷役機器の導入、荷主企業とのパートナーシップによる環境負荷低減提案など、積極的に取り組んでいます。安全については、リスクマネジメントの考え方を取り入れた、独自の「安全マネジメントシステム」を構築し、安全水準の向上を図っています。また、企業は「人」により支えられているという考え方のもと、安心して快適な職場環境づくりにも目を向け、事業所内に保育園や食堂カフェテリアを設置しました。

これからも当社グループを取り巻くステークホルダーの皆様には評価をいただけるよう、法令、企業倫理の遵守を徹底し、透明性の高い健全な企業活動を通じて収益性を高め、CSR活動の充実に努めてまいります。皆様より、今回発行致しました「CSR報告書2009」について、ぜひ忌憚のないご意見、ご評価を頂戴し、今後の活動に活かしていきたいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。



センコー株式会社
代表取締役社長
CSR推進委員会委員長

福田 泰久

経営とCSR

センコーの事業概要

流通ソリューション実現企業として、社会に貢献

SCM全般※の効率化を支援する“流通情報企業”として、センコーは、ITを駆使したシステムで最適な流通ソリューションを提案。国内シェア・トップクラスの住宅分野、石油化学・樹脂分野、また成長著しい流通ロジスティクス分野の物流事業を中心に、お客様の様々な課題を解決し社会の発展に寄与する事業活動を推進しています。

※SCM(サプライチェーン・マネジメント):ビジネスプロセスの全体最適を目指す戦略的な手法、情報システム

センコーの主力3事業

01

住宅分野

物流のシステム化で
トータルコスト削減に貢献

住宅資材の調達から、施工進捗に合わせたジャスト・イン・タイム配送まで、センコーは住宅メーカー様のSCMに関する全てのニーズに対応。日本でもトップクラスの実績とノウハウを有しています。



02

石油化学・
樹脂分野蓄積したノウハウを活かし、
物流効率化を支援

工場内物流から保管、エンドユーザー配送まで、創業以来培った豊富なノウハウで、多彩なシステム物流を展開しています。また物流アウトソーシング等、付加価値物流の提案を積極的に行っています。



03

流通
ロジスティクス
分野流通SCMの事業領域を拡大し
様々な課題に対応

全国に広がる物流センターネットワークの活用、ITを駆使した先進のシステム物流で、「量販・小売分野」の物流効率化を実現。また情報と商品の流れを一元管理し「アパレル分野」の物流を効率化。「医療・医薬・介護分野」においても、最適なソリューションを提供しています。

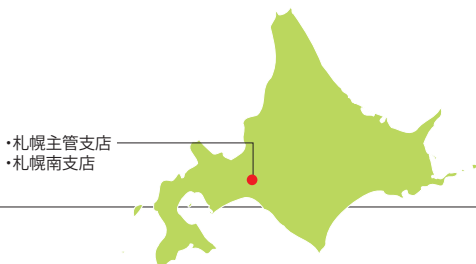


会社概要 ※平成21年3月31日現在(勢力グループ合計)

商号	● センコー株式会社 (Senko Co.,Ltd.)
資本金	● 18,345,643,751円
創業	● 大正5年9月
設立	● 昭和21年7月
本社	● 〒531-6115 大阪市北区大淀中一丁目1番30号 TEL.06-6440-5155(代表)
代表者	● 代表取締役社長 福田 泰久
事業所	● 289箇所
グループ会社数	● 54社
従業員数	● 7,767名
貨物自動車	● 3,072台
支配船舶	● 19隻
倉庫	● 1,857,047平方メートル
URL	● http://www.senko.co.jp

主要サービス



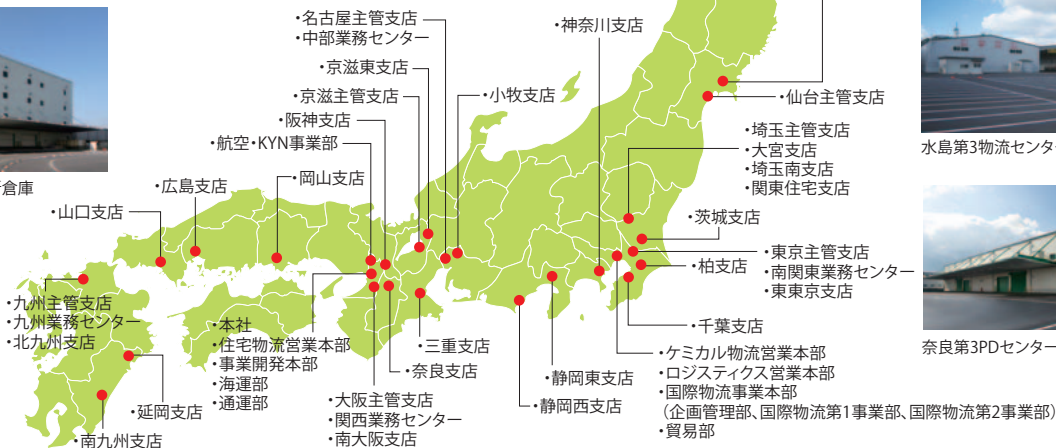


国内拠点

全国186万㎡。販売戦略をもサポートする物流拠点。



内守谷センター新倉庫



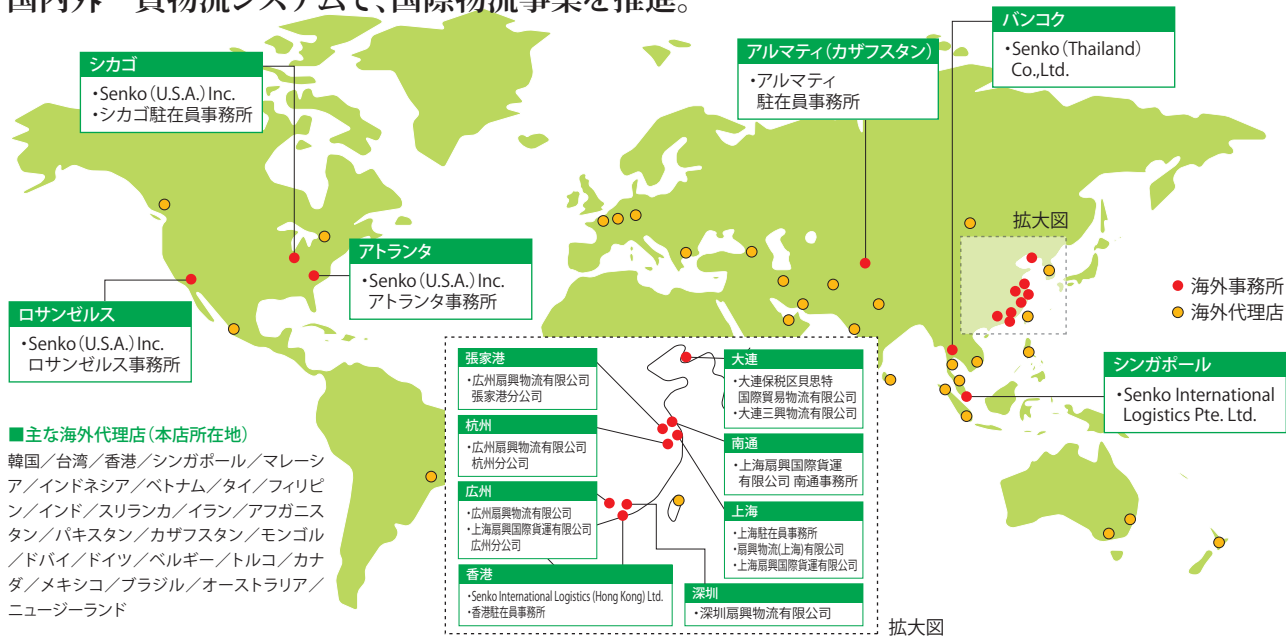
水島第3物流センター



奈良第3PDセンター

海外拠点

国内外一貫物流システムで、国際物流事業を推進。

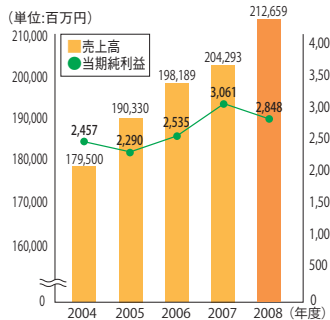


■ 主な海外代理店 (本店所在地)

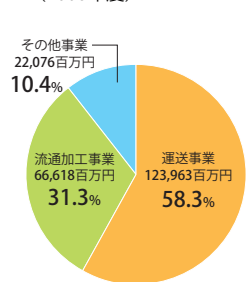
韓国/台湾/香港/シンガポール/マレーシア/インドネシア/ベトナム/タイ/フィリピン/インド/スリランカ/イラン/アフガニスタン/パキスタン/カザフスタン/モンゴル/ドバイ/ドイツ/ベルギー/トルコ/カナダ/メキシコ/ブラジル/オーストラリア/ニュージーランド

センコーグループ事業データ

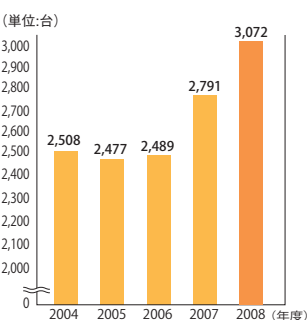
■ 連結売上高/当期純利益の推移



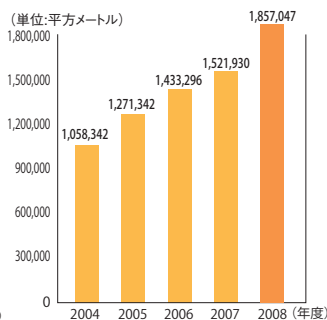
■ 連結セグメント別売上高 (2008年度)



■ 車両台数 (連結)



■ 倉庫総面積 (連結)



経営とCSR

企業目標とCSR方針

社会から信頼されるセンコーであるために—

CSR(企業の社会的責任)への社会の関心と期待が高まり、企業価値を評価する上でさらに重要視されています。地域社会や顧客から支持される企業となるために、センコーでは「CSR経営」の体系を整え、誠実な事業運営を展開できる倫理観の高い組織づくり、地球環境保全や安全確保など物流業界の担うべき責任を全うする取り組みを推し進めています。

社是

確実

Sure

迅速

Swift

スマイル

Smile

流通事業の使命を自覚し、つねに最高の技術、最高の能力、最高のマナーをもって、顧客の立場に立って義務の完遂を図る。これが3Sの精神である。

中期経営計画

「流通情報企業の確立」を掲げた三カ年の中期経営計画の最終年度を迎えました。目標達成に向け、さらに主力3事業の収益拡大に努めるとともに、国際物流事業や商事事業などの重点強化事業、医療や生活関連など新規事業の育成・強化を図ります。

主力3事業

住宅物流事業

石化・樹脂物流事業

流通ロジスティクス事業

実物流の提供に加え、情報・商流を具備した流通SCMを提供し、顧客の流通業務を包括的に受託するビジネスパートナーへ。

重点強化事業

国際物流事業

商事事業

情報事業

3PLソリューション事業

流通情報企業を確立するために必要な事業機能として、主力3事業に匹敵する事業規模・事業体制へと育成・強化。

新規事業

医療関連事業

生活関連事業

人材サポート事業

輸送関連事業

次代の主力事業の創出と事業拡大を目指し、新たな売上基盤となる分野・事業領域へ進出。

流通情報企業とは?

企業や消費者に最大の価値を提供するために、生産から消費までサプライチェーン全般の効率化を目指す企業。流通全般に関する情報をリアルタイムで収集・分析し、ITを駆使したロジスティクス・システムと統合することで、最適な流通ソリューション(通信とコンピュータを活用し、問題解決を図る)を実現します。

「CSR経営」推進体制

CSR経営を積極的に推進する組織として、2008年4月に「CSR推進委員会」を設置しました。センコーは、環境保全、交通安全対策を経営の最重要事項と位置づけていますが、当社が果たすべき社会的責任の領域を明確にすることで、活動の領域を今後さらに拡大し、ステークホルダーそれぞれに有益な実効性のある取り組みを実践していきます。

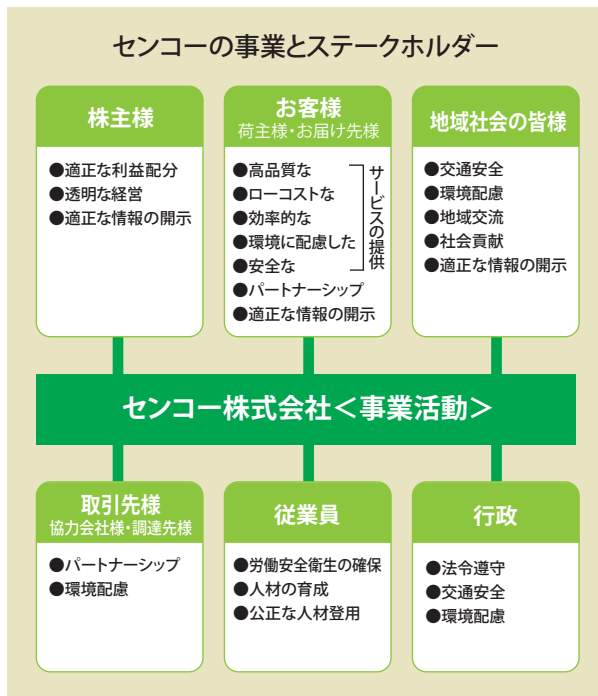
■CSRの基本的な考え方

センコーの事業の中核を成す「運輸業」は、高い公共的使命を持っています。それゆえ本業を通じて社会に貢献し、その責任を果たしていくことは企業永続の必須要件です。

センコーはそのことを真摯に受け止め、適法性と透明性を確保した倫理観の高い組織づくりを行っています。同時に全従業員が公共性の高い事業に携わっているとの認識を深め、本業を誠実に全うすることを通じて社会への貢献を追求していきます。

■取り組むべき重要課題

次の3つを「センコーグループCSR経営の柱」と位置づけ、社会との共生を図りながら持続的な発展を目指します。



『法令遵守企業』 に向けての取り組み

企業の継続的な事業運営、企業の存続に関わる適法性と透明性を重視した組織づくり

特集企画P13をご覧ください

『環境対応企業』 に向けての取り組み

CO₂排出企業の使命として、グリーン物流・調達など環境負荷を低減する活動の推進

特集企画P9・10をご覧ください

『安全重視企業』 に向けての取り組み

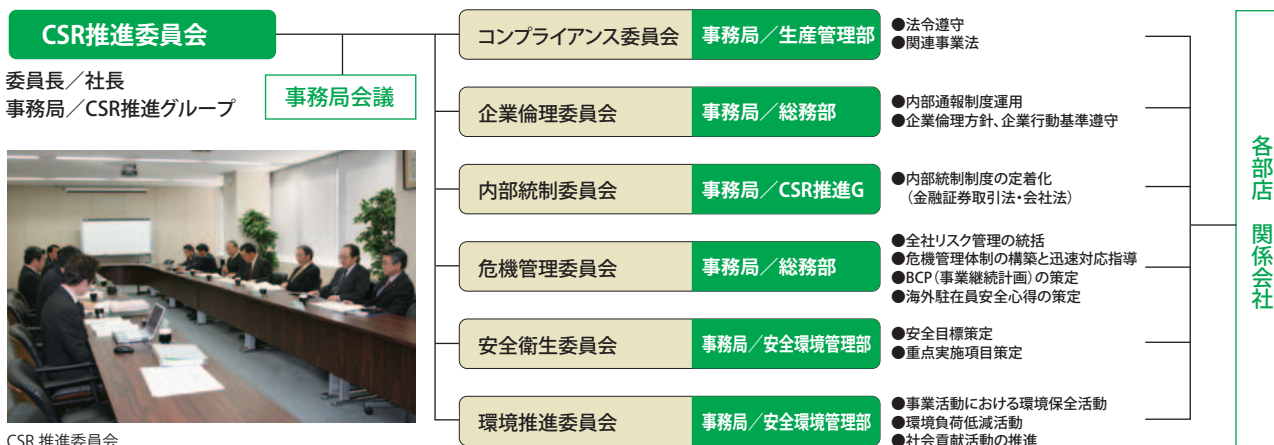
物流企業の責任として、またコア・コンピタンスとなる安全対策での品質差別化

特集企画P11・12をご覧ください

CSR推進組織

CSRの重要課題である「コンプライアンス」「企業倫理」「内部統制」「危機管理」「安全衛生」「環境推進」の各委員会で、具体的施策の立案と実行に取り組んでいます。CSR推進委員会は、企業CSR活動の年度活動方針や活動計画などを審議して決定し、また各委員会への指導・助言を行うなど、センコーのCSR経営全体をプロデュースする役割を担っています。

■「CSR経営」推進体制図

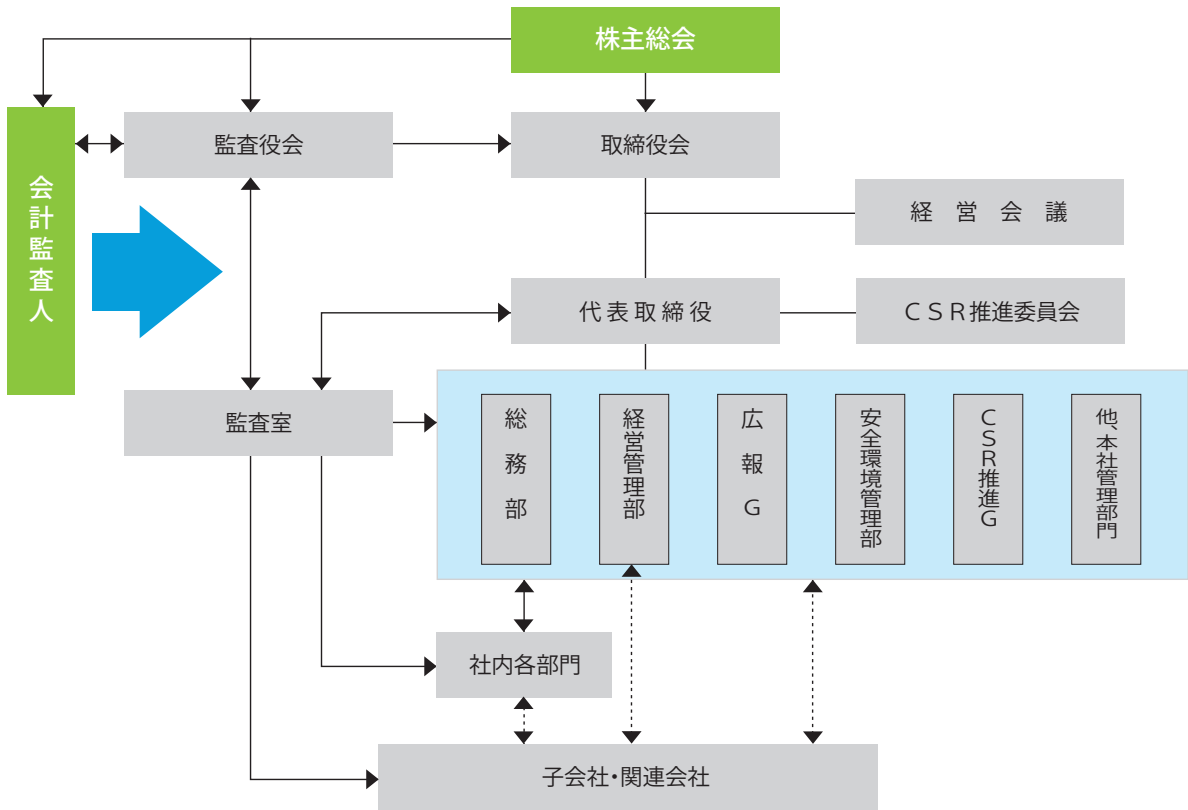


CSR推進委員会

コーポレート・ガバナンスと コンプライアンスについて

コーポレート・ガバナンスの考え方と体制

センコーグループは、コーポレート・ガバナンスの充実が企業存立の基盤であり、経営の最重要課題の一つであるとの認識のもと、公共性の高い物流事業を行う企業として、コンプライアンス（法令遵守）に徹した企業行動に努めています。

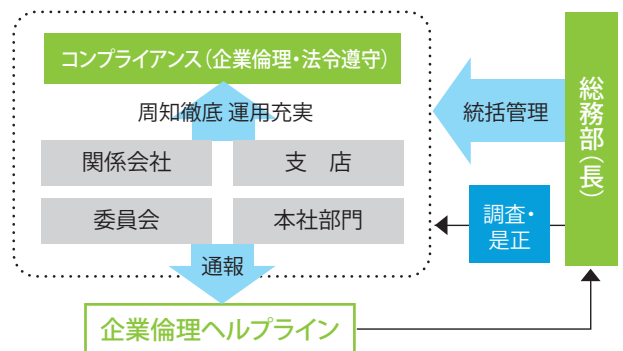


【業務執行と監査・監督】

- ①取締役会は、毎月1回以上開催しており、法令で定められた事項の他、経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行を監督する機関として位置づけております。また、執行役員制度を導入し、取締役会の機能強化に向けた「経営の意思決定・監督」と「業務執行」の各機能の分離、双方の機能強化と責任の明確化を図るとともに、執行役員も出席する経営会議を設置し、業務執行状況の検証を行い、より透明度の高い経営の実現を図っております。
- ②監査役は、取締役会に出席し、取締役の業務執行を客観的立場から監視するとともに、内部監査部門である監査室及び会計監査人と連携し、子会社も含めたコンプライアンスの徹底を図るとともに、厳正な監査を実施しております。

コンプライアンス経営

法令を遵守し、倫理にかなった事業活動を行うことは、企業が社会的責任を果たし、全てのステークホルダーから信頼を得る上で、最も基本的なことです。センコーグループでは、誠実で公正な事業経営を旨とし、コンプライアンスの強化を推進。既に設置・制定している「センコー企業行動基準」、「センコーグループ企業倫理委員会」、「企業倫理ヘルプライン」について、総務部の統括管理のもとで、各担当部門において周知徹底と運用の充実を図り、重要事項については取締役会が指針や内容を決定するなど、コンプライアンス体制をより強固なものとし、社会的信用の向上を図っています。



危機管理体制の構築

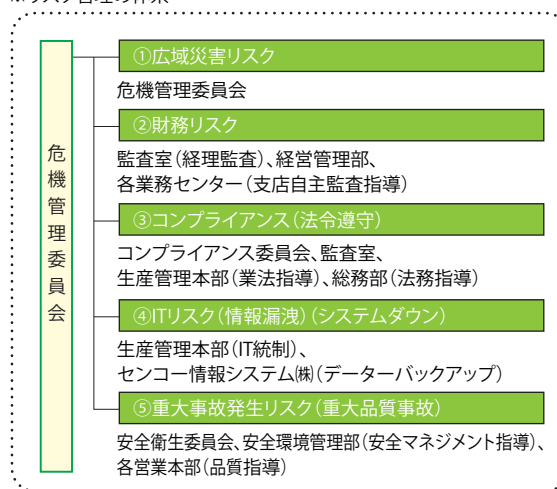
当社が遭遇すると考えられる事故・災害・事件等は多岐にわたり、その発生頻度、経営に与える影響等も異なり、またその対応もそれぞれのリスクによって異なります。従って、種々にわたる緊急事態に対して全社一丸となった対応を図るため、「緊急時対応マニュアル」を制定し、危機管理体制を構築しています。

危機管理の取り組みの考え方として、万一緊急事態が発生した場合は、①人命優先 ②物的損害（経営損失）の軽減 ③業務の早期再開 ④社会的信用の維持 ⑤地域社会への支援と貢献の観点から対応策を検討し、実施します。緊急事態発生時には、本社及び現地対策本部の設置基準に基づき、年度初めに、本部組織体制、担務事項、担当責任者を明確にして、緊急時に即座に対応できるよう備えております。

■2008年度の取り組み課題

- ①企業全般に顕在化するリスクに対し、組織的で適切な対策を講じる必要があることから、代表取締役を委員長とする「危機管理委員会」を右図の通り設置しました。同時に、リスクの体系化、その対応部門を明確にすることを目的に「リスク管理規程」を策定し、グループ社員への周知を行いました。
- ②“災害発生後6時間以内の従業員安否確認が完了する体制の構築”を目指して、毎年最低2回、震災の発生を想定した、従業員安否確認報告訓練を実施しており、昨年度も9月9日と2月2日に訓練を行いました。
- ③2008年冬からの発生リスクが急速に高まった「新型インフルエンザ対策」として「海外危機管理マニュアル」の改訂を行いました。また、国内発生に備えて、従業員やお客様からの問い合わせに答えられるよう管理者に対し啓発用図書の配布を行いました。

※リスク管理の体系



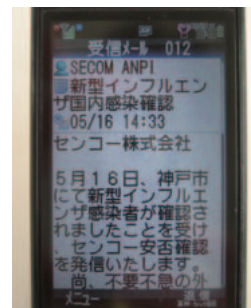
TOPICS

2009年5月の新型インフルエンザ国内感染者確認への対応について

5月16日に神戸で国内で初めての感染者が確認されたことを受け、社長を本部長とする「新型インフルエンザ本社対策本部」を立ち上げました。

- 「感染から身を守る予防管理」と「感染を拡大させない」ことを基本行動として、
- ①38度以上の高熱の症状が出た場合（家族も同じ）、出社せずに自宅療養すること。
 - ②感染確認地域への出張自粛、会議の開催の自粛。
 - ③感染確認地域への外出時のマスク着用、手洗い・うがいの徹底。（帰社時も同じ）
- 等、グループ企業各社に対し公文書にて通知し、さらには、従業員に対しては「安否確認システム」で個々の健康状況の確認を行いました。

また、お客様からの「新型インフルエンザ」に対する当社への要望事項についても、情報の集約化を行い、適切な事業継続計画の策定につなげています。



5月16日、全社員に発信された安否確認メール

個人情報保護

センコーでは、集荷・配送の依頼など、様々な機会にお客様の個人情報をお預かりしています。

こうした情報を適切に扱い、保護することは企業の責務と考え、個人情報保護の徹底に努めています。

■プライバシーマークの認証取得について

プライバシーマークとは、個人情報の取り扱いに関して適切な保護措置を講じていると認められた企業に対し、(財)日本情報処理開発協会が認定・付与するものです。2003年10月、センコーの関係会社で、流通情報システムの構築・運用を担当するセンコー情報システム(株)が「プライバシーマーク」を取得しました。

特集1

地球温暖化防止への積極的推進

地球温暖化防止への対策が急務となる中、センコーは「環境マスタープラン※」に則り、事業活動で発生する温室効果ガス(CO₂)排出量削減の目標数値を定めて、より環境負荷の少ない輸送形態への転換や太陽光発電など自然エネルギーの活用を積極的に推し進めています。 ※詳しくはP15をご覧ください。

CO₂排出を大幅低減する船舶モーダルシフト

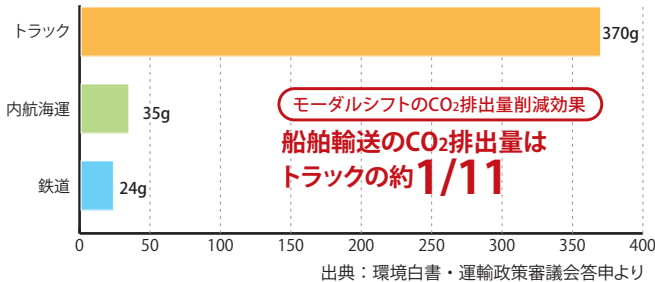
我が国の貨物輸送の実に4割が、海上(船舶)輸送によって支えられています。海上輸送は、長距離・大量輸送に適しておりエネルギー効率、CO₂排出量などで他の輸送機関よりも優れており、地球環境にやさしい輸送手段として注目されています。

センコーは貨物自動車輸送と鉄道や海上輸送とを組み合わせ合わせた効率的で環境に配慮した輸送システムを構築し、お客様にローコストで環境負荷の小さい物流を提案することで、お客様をサポートしていきたい、社会的使命を果たしていきたいと考えています。

海運部 部長付海工務担当
宮内 優

執行役員 海運部長
谷口 玲

■ 貨物輸送機関別CO₂排出量 (g・CO₂/トンキロ)



● 「海陸一貫」の高効率輸送を実現

ドア・ツー・ドアの海陸一貫輸送をセンコーのネットワークにより様々な輸送システムとして実現。CO₂排出量の低減の他、貨物自動車の長距離輸送によるドライバー負担、道路混雑を緩和し、陸上でのNOx・SOxの排出削減に寄与しています。

○ 貨物船共同輸送

複数のお客様の貨物を積み合わせ約500tの貨物船1隻分の物量を確保することで、低廉な海上輸送を活用できるシステムです。お客様は10~15tのトラック輸送単位の物量でも海陸一貫輸送をご利用でき、サービス開始から十年以上継続しています。

○ バルクコンテナラウンド船輸送

関東~中京~近畿~中四国地区にバルクコンテナ専用ヤードを設け、各ヤード間を専用船でラウンド運航します。バルクコンテナを各ヤードに適時適量ストックし、お客様の需要に応じ、都度バルクコンテナ専用車でお届けします。

○ RORO船輸送

集荷・配送は貨物自動車の長所を活かしながら、セミトレーラのシャーシ(荷台)のみを船舶に積載するシステムです。トラックに積載し得るあらゆる貨物に対応し、北海道から沖縄まで網羅し、ドライバーの乗船や長距離運転を省力化しています。

● センコー独自の専用コンテナを開発

輸送形態の転換に加えて、物流効率化に効果を発揮しているのが大型化への取り組みです。センコーが独自に開発したバルク専用コンテナは、充填量が16~20tと従来のコンテナに比べて積載量が5~6割アップしました。納入頻度を減らしたことから、輸送回数とそれに伴う燃料使用量を大幅に削減しています。

工場での直接充填後は外気に触れることなく納入先の原料サイロへ直接投入できる



● 低公害型の大型新造船が就航

2008年10月に「ケミカル船 扇泰丸」、また2009年2月には「液化アンモニア船 扇凧丸」が運航を開始しました。両船とも従来型エンジンよりNOx・SOxの排出量が少ない低公害の新型エンジンを採用しています。

2009年度からはエンジン(スクリュー)の回転数を下げた省燃費運航に取り組んでいます。

< SENKO 支配下船舶 >

汎用貨物船10隻 / 液化アンモニア船3隻 / ケミカル船5隻 / 重油タンカー1隻



< 扇泰丸 >

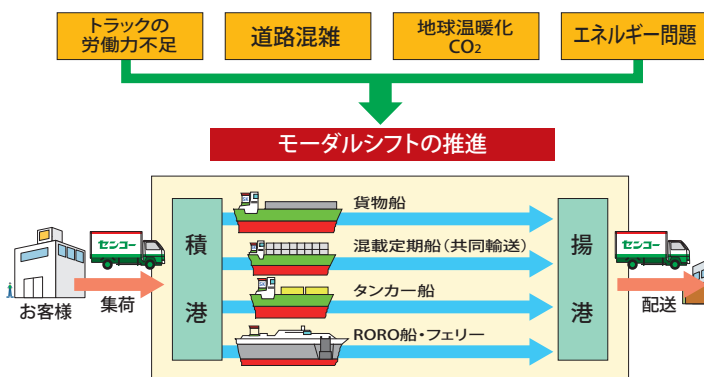
積荷積載量1,199t
沖縄~京浜間の各港を巡航

< 扇凧丸 >

液化アンモニア船の
総タンク容積は国内最大規模に



■ 船舶モーダルシフトイメージ



RORO船から降りてくるトレーラー



海上輸送



荷役風景

● 船舶を利用したモーダルシフト事例

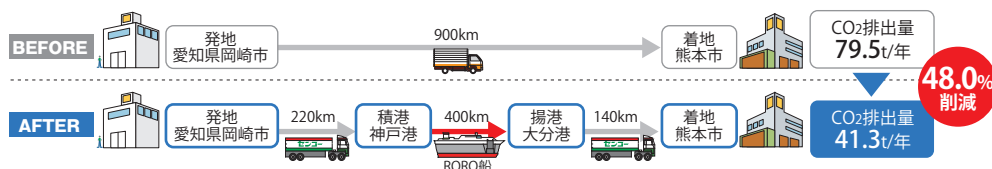


東レ株式会社
購買・物流部門
物流部長
橋 真一 様

モーダルシフト取り組みの排出CO₂総量算定例

CASE STUDY

東レ株式会社様 輸送物量：年間1,000t (H21年2月開始)



モーダルシフトへの取り組みにおけるお客様の声

東レグループでは「安全・防災・環境保全」をあらゆる経営課題に優先して取り組んでおります。物流面においても例外ではなく、①仕組みを変えた物流 ②環境最優先の物流政策 ③CSRを意識した物流施策—という3つの方針を打ち出し実践しています。中でも、CO₂削減については改正省エネ法で5年間で5%の改善が義務づけられておりますが、東レでは2010年度まで2006年度比28%の削減を目標に様々な取り組みを実施しています。主なものでは輸出入時の港を主要港から地方港へシフトすることによる国内輸送距離の削減や、鉄道輸送への切り替え、大口輸送化にも取り組んでまいりました。今回のモーダルシフトでは、今までトラックで客先へ直接配送していたものをトレーラーと内航船での大口輸送へ切り替えることで年間38トンのCO₂削減を予定しています。今後さらにセンコー様のご協力のもと、取り組みを加速させていきたいと考えています。

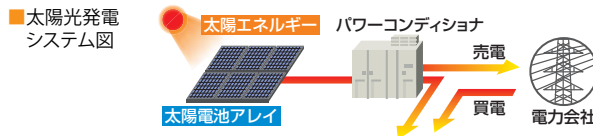
物流拠点に太陽光発電を導入

物流拠点においても、センコーは環境に配慮した設備を導入。「水島第3物流センター」では、2008年12月に事業拡大に向け普通倉庫2棟・危険物倉庫1棟の3棟を増設し、内1棟の屋根に100kWの高効率「太陽光発電」設備を設置しました。年間101,659kWhの発電力量を見込んでおり、2009年2月より既存の水島第1・第2物流センターを含む水島物流センター内全体(普通倉庫6棟、危険物倉庫1棟ならびに事務所)の施設内照明や動力機器、制御機器、空調などに使用を開始、全電力消費量の過半をクリーンエネルギーで賄っています。

この太陽光発電によるCO₂削減想定量は年間56.4t※。天候

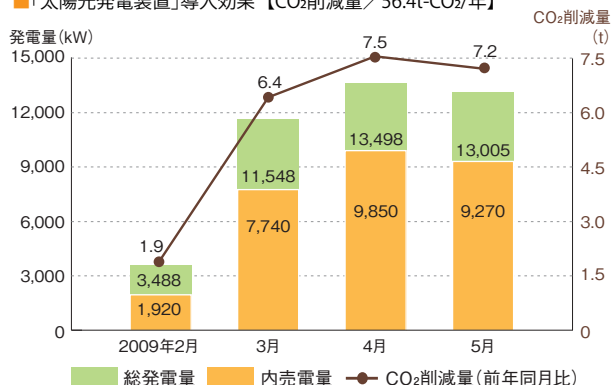
の良い日の昼間や業務が休みとなる休祭日の余剰電力を売電することで電気代も大幅に削減しています。また現場で働く従業員にも環境教育を実施し温暖化防止への意識を高めるなど、ハード・ソフト両面からの環境取り組みを行っています。

※CO₂削減効果は「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」(2008年度時点)に基き、「0.555kg-CO₂/kWh×発電力量(kWh)」で算出。



太陽光発電システムを導入した水島第3物流センター

■ 「太陽光発電装置」導入効果【CO₂削減量/56.4t-CO₂/年】



※2月は、2月15日～末の数値です。

特集2

クレフィール湖東での安全・環境教育活動

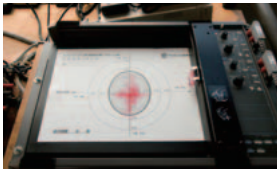
「クレフィール湖東」は国内屈指の規模を誇る公開型交通安全研修施設です。センコーでは、企業や団体、一般ドライバーに向けた多彩な研修プログラムを構築。“安全重視・環境配慮企業”として培ってきた安全運転やエコドライブに関するノウハウを広く社会に提供し、交通安全向上や環境保全に貢献しています。

● クレフィール湖東全景



▲ 基本走行

基本姿勢での走行と通常の運転姿勢を比較。S字をできるだけ早く走行する体験をすることで、基本姿勢がいかに大切かを理解します。



▲ 安心・快適運転-1

旅客自動車研修では、「X-Yレコーダ」搭載車両で車内の揺れを計測しながら走行し、乗客の安全を確保する運転操作を確認します。



▲ 安心・快適運転-2

バス停や踏切などが設けられた模擬コースを走行し、マイクアナウンスの仕方等についての指導も受けます。



▲ 制動・反応

濡れた路面で急ブレーキをかけ停止するまでの制動距離を確認。自らの反応の限界を知り、どれくらいの車間距離が必要かを体得します。



▲ 夜間検証

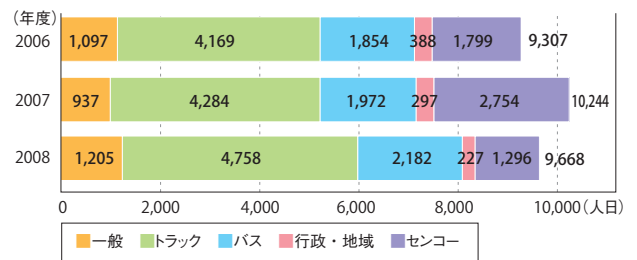
対向車のライトによる蒸発現象や眩惑現象、色彩による視認性の違いを検証。落下物等も置かれたコースを走行し、夜間の怖さや留意点を再確認。

国内屈指の施設で、企業・団体の安全技術向上を支援

約66,000㎡の交通教育ゾーンには、基礎訓練エリア、回避訓練エリア、高速周回コース等が設けられ、公道で起こり得る危険を踏まえた様々な走行シーンを体験できます。また、お客様のニーズや実情に合わせた研修プログラムの作成も行っています。

これまでに4万人を超える研修生を外部からも受け入れ、研修後は事故件数が減少するなど嬉しい報告もいただいています。

■ クレフィール交通研修 企業・団体別利用者実績



● エコドライブ研修

省燃費で人と環境に優しい運転技術を体得するのが、エコドライブ研修です。使用燃料の計測ができる燃料流量計を搭載した研修車両を使用し、普段の走行と講習後の走行データを比較分析します。燃料を使わない惰力運転やエンジンブレーキの活用、急ブレーキや急加速をしないエコドライブを行うことが、積荷や乗客にも優しく、安全につながることを理解します。



● 安全運転研修

一般乗用車、貨物自動車、旅客自動車、さらに消防・救急緊急自動車ドライバー研修まで、クレフィール湖東は、車の構造的特性や業務特性に合わせた様々な安全運転研修を実施しています。走行訓練では、高い技術と指導力を持った専任インストラクターの直接指導を受けながら、危険の回避に必要な安全運転の技能と知識を実践的に学んでいきます。





VOICE お客様の声



神姫バス株式会社
バス事業部 運輸課長
須和 憲和 様

当社では、「安全はすべてに優先する」をモットーに、子会社を含め約1,300名の運転士が路線バス・高速バス・観光バスを運行し、地域密着型の高品質なサービスを目指しています。特に路線バスなどを繰り返しご利用いただくお客様は、日々のささいな変化にとっても敏感です。それだけに、運転士全員の運転技能レベルを均一に保つことが大変重要だと考えています。

クレフィール湖東では2年前から神姫バスオリジナルの特別研修を行い、これまで約150名の運転士が参加しました。この研修では、運転姿勢、マイク操作などの基本動作についての理論的な説明から、「危険運転の体験」や「反応実験」という体験によって自らの限界を知り、入社3、4年に生じる運転への“慣れ”を基本に立ち戻すなど、一人ひとりに応じたきめ細かな指導をいただいています。

また、インストラクターの皆さんが礼節を重んじる姿は、当社が目指す接客姿勢に通じるところがあり、マナー教育のお手本にもさせていただいています。

特別研修を始めてから、「ぜひ、次は私も受講したい」といった声が出てくるなど、安全に対する意識が向上しています。今後は、クレフィール湖東の研修ノウハウと、当社が求める技能・知識を融合させ、さらに専門的な研修プログラムを構築していきたいと考えています。これからもご支援のほど、よろしく願い申し上げます。

スペシャリストを育成する業態別物流技能訓練

● 潤滑油シャトルリーダー養成訓練

クレフィール湖東においては、業態別物流技能訓練の一つとして、安全で高品質な潤滑油物流を目指し、配送ドライバーの指導にあたるリーダーを養成する「潤滑油シャトルリーダー養成訓練」を開催しています。

受講生はクレフィール湖東のインストラクターと社内選抜された技術指導員からの教育を受け、安全運転や配送・荷役スキルを習得。各事業所リーダーとして潤滑油配送担当ドライバーに技能指導を行い、高度な配送技術の標準化を図っています。



リーダー養成訓練/積載方法訓練

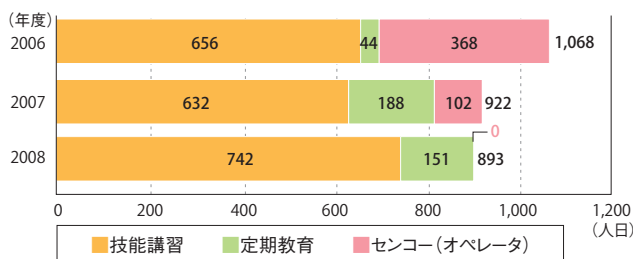


潤滑油ドラム缶の取扱訓練

● フォークリフト運転技能講習

雨天でも講習が行えるフォークリフト講習場も完備しています。陸上貨物運送事業労働災害防止協会・滋賀県支部主催の運転技能講習を定期的に行い、多くの企業様にご利用いただいています。また講師を派遣し、定期教育や技能の向上をサポートする体制も整えています。

■ クレフィールフォークリフト 講習別利用者実績



※センコーでは、トレーナー制度(P24参照)が整い、運転技能研修を各支店・事業所で行っているため参加人数は減少しています。

特集3

法令遵守企業を目指す、内部統制への取り組み



取締役専務執行役員
内部統制委員会 委員長
手塚 武與

経営の透明性と法令遵守を徹底させるために、センコーグループでは、CSR推進委員会の専門委員会の位置づけで、「内部統制委員会」をはじめとする各検討機関を設置しています。財務報告に係る内部統制規則を制定するなど、業務の適正さを確保する体制を強化し、さらなる信頼性の向上に努めています。

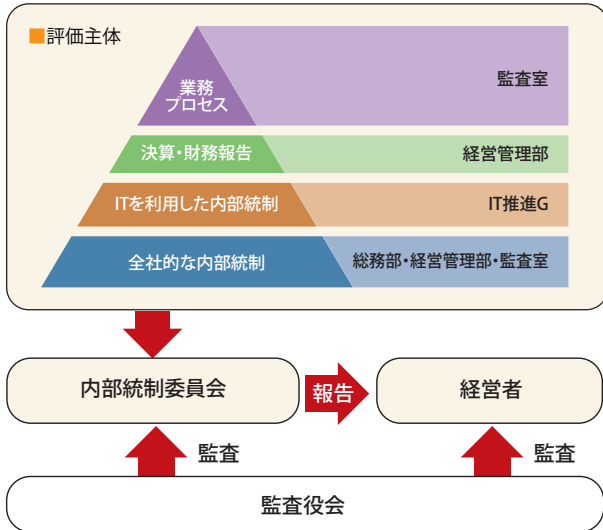
■ 内部統制の基本方針

当社グループは、適正な財務報告を行い、その信頼性の確保に努めることが、当社グループの社会的責任であること、並びに当社グループに対する信用の維持、向上に資するものであるという認識のもとに、財務報告に係る内部統制の整備、運用、評価および報告を行う。

内部統制制度に対する当社の取り組み

当社グループでは2006年5月に内部統制プロジェクトチームを組成し、財務報告に係る内部統制の構築を進めています。適正な財務報告を実現するために、各業務フローの枠組み、処理手続、判断基準となるリスクコントロールを定めるとともに、全事業所への指導を実施。具体的には、グループ各社で規定やマニュアルなどの文書化を進め、業務の可視化、標準化や改善に取り組んでいます。また各拠点毎の説明会や社内報への掲載を行い、全社員の意識浸透を図っています。

● 適正な財務報告に向けた「内部統制の評価体制」



実運用年度に当たる2008年度は、整備評価を6月に完了し7月から運用評価テストを開始。2009年3月時点で改善活動も終了し、適正な「内部統制報告書」を作成できる条件整備が整いました。

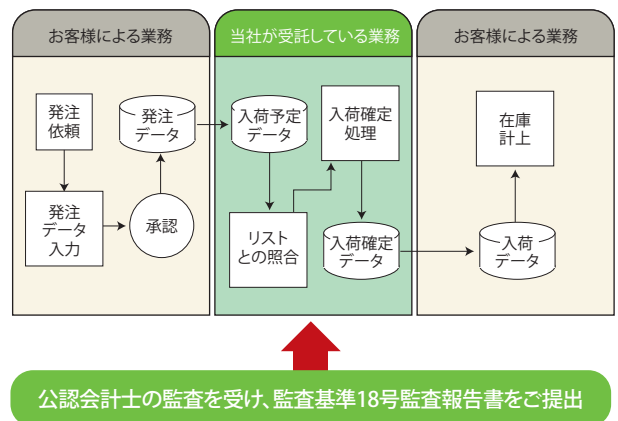
金融証券取引法に基づく内部統制報告制度の対応については、重大な不備や欠陥はなく2009年6月に「内部統制報告書」を提出し完了しました。今後も、各事業所に対して内部統制制度の重要性を認識させ、全社一丸となって取り組みを継続してまいります。

2008年度に行った取り組みは以下の通りです。日常業務の中で、定められた手順や規定を“あたりまえ”に行える企業風土を醸成していきます。

- **全社的な内部統制**
当社及び子会社であるセンコー商事(株)、センコー情報システム(株)、センコーエーラインアマン(株)を対象に実施。
- **業務プロセス及び決算・財務報告に係る内部統制**
主要事業及び決算・財務報告に係る業務プロセスを中心に約100プロセスを設定し実施。
- **ITを利用した内部統制**
IT環境及びIT活動の管理(システムの開発・変更に係る管理、システム安全確保及び外部委託に関する契約の管理)に対し、25プロセスを設定し実施。

● 受託業務の内部統制制度への対応

お客様の内部統制にも対応すべく、2008年度より当社に商品を保管していただいているお客様に対し、入庫、出庫、棚卸しを対象とした「内部統制に係わる整備・運用状況報告書」(監査基準18号監査報告書)をご提出させていただける体制を整えています。



環境活動報告

環境基本方針

環境との調和と共生を目指して

物流企業が環境に与える影響は大きく、環境負荷低減への取り組みは重要な責務であるとセンコーは考えています。2001年度より開始した「環境マスタープラン」においても、従業員への環境啓発活動(第Ⅰ期)から物流環境先進企業としての着実な実践(第Ⅱ期)、社外に環境活動領域を広げる第Ⅲ期へと、循環型社会の構築に向けて、段階的に深化・発展させた貢献活動を展開しています。

環境基本方針

環境理念

次世代へと継承していくべき地球が、豊かな自然環境に恵まれ続けるために、私たちはすべての事業活動を通じて、自主的かつ積極的に省エネルギー・省資源をはじめとする環境対策に配慮し、環境の保全及び継続的改善に取り組む。

行動指針

- 地球環境に気を配る企業であること
- 環境保全性と経済性の同時達成を目指すこと
- 従業員一人ひとりが身近なことから、環境問題に主体的に取り組むこと

環境方針

基本姿勢

私たちセンコーグループは、深刻化する地球環境問題を、当社のために働くすべての人が正しく理解し、地球資源の有効活用と資源循環に寄与する取り組みを推進する。

また、物流の果たす役割認識を深め、環境に貢献する高度なロジスティクスシステムをあくなき創造性を発揮し、提案し続ける。

基本方針

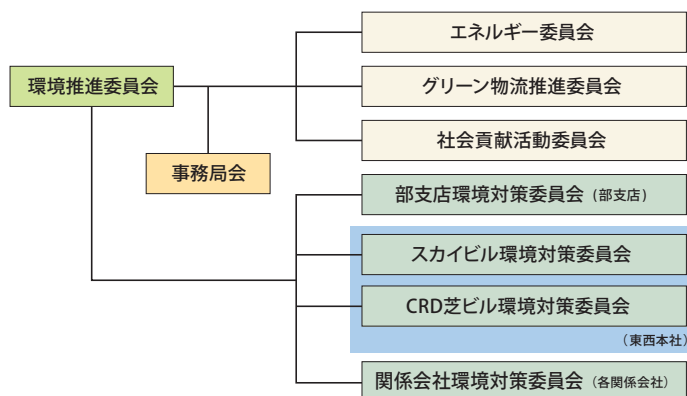
1. 環境マネジメントシステムと環境活動の継続的な改善を推進し、環境汚染の予防に努める。
2. 環境に適用される法規、条例、協定および同意するその他の要求事項を遵守する。
3. 当社が行う事業活動が環境に与える影響の中で、以下の項目を重点テーマとして取り組む。
 - (1) 大気汚染防止対策および地球温暖化防止対策を積極的に推進する。
 - (2) 廃棄物の適正管理・リサイクルの促進により排出量を削減する。
 - (3) 環境に貢献する事業サービスを積極的に提案する。
 - (4) 省資源、省エネルギー、グリーン購入を推進する。
4. この環境方針を達成するため、環境目的、目標を設定し、当社のために働くすべての人に周知し、理解と環境意識の向上をはかる。また、社外に環境方針を公開し、理解と協力を得る。

－この環境方針は全従業員に周知し、社外の要求に応じ公表する－

2006年10月制定

環境推進体制

グループ体となった環境活動を推進するための組織体制を整えています。その中核となるのが「環境推進委員会」で、環境改善課題を検討し、「エネルギー」「グリーン物流推進」「社会貢献活動」の各委員会ではそれに基づいた具体的施策を立案し、目標の達成に向けた取り組みを行っています。



環境マネジメントシステムの推進

環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001に準拠した「センコー環境マネジメントシステム(SEMS)」を構築し、展開しています。

ISO14001規格の2004年版への改訂にも対応し、新規格に合わせてマニュアルや基準書類を改訂、活動も移行しました。改訂規格審査による認証は、2007年3月の更新審査によって現在も継続されています。

環境活動報告

センコーの環境目標と成果

第Ⅲ期「環境マスタープラン」

環境マスタープランの第Ⅰ期は「従業員が環境問題への関心を持ち、できることから取り組む」、第Ⅱ期では「環境活動を着実に前進させる」ことを目指した取り組みを実施。2008年度は第Ⅲ期の中間年として以下の考え方をもとに環境活動を進めました。

第Ⅲ期環境マスタープラン(2007～2009年度) 社外に環境活動の領域を広げていく

■基本的な考え方

持続可能社会を目指した環境対策への積極的な対応と、ロジスティクスの高度化による物流環境貢献企業を目指していく。

■施策

1. 資源生産性を高める活動
2. 法規制遵守と管理システムを充実させる活動
3. 積極的にマーケットに働きかけ競争力を高める活動

■環境目標(2006年度比)

1. CO₂排出量の5%削減
2. 廃棄物排出量の売上当り30%削減
3. 個別目標 ①自動車燃料: 燃費3%削減 ②電力: 売上当り使用量3%削減

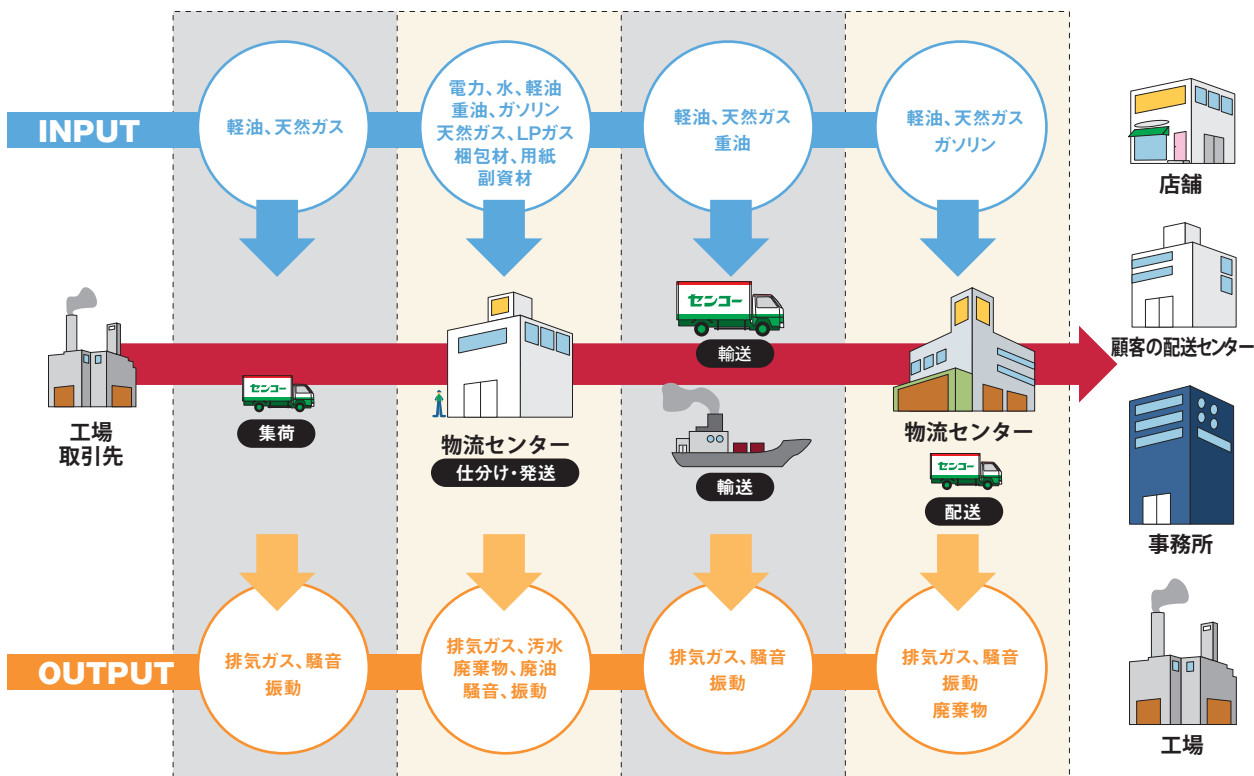
センコーの環境目標と成果

2008年度は第Ⅲ期環境マスタープランの中間年として年次計画を策定し、環境活動に取り組みました。

2008年単年度 目的・目標		取り組み進捗・結果
定量目標	CO ₂ 排出量 2006年度比3%削減(売上当り)	・2006年度比0.9%増加(売上当り) (自動車燃料低減するも電力・船舶燃料増加のため)
	廃棄物排出量 2006年度比20%削減(売上当り)	・2006年度比48%削減(売上当り) (2006年度大量排出と分別リサイクル推進効果)
	自動車燃費 2006年度比3%向上	・2006年度比3.9%向上 (デジタコ導入などの効果)
	電力使用量 2006年度比2%削減(売上当り)	・2006年度比11.5%増加(売上当り) (新設大型物流拠点設備増による)
1. 環境負荷低減		
①低公害自動車導入 ・4トン車以下在籍比率 9%	・4トン車以下在籍比率8.7%	
②低公害リフト導入推進	・代替、及び新規導入車中、低公害リフトは79.2%	
③太陽光発電機器導入推進	・水島第3物流センターに設置し、稼働	
④省燃費タイヤの導入推進	・効果検証テスト実施し、効果確認。全社へ推奨	
⑤事務用文房具グリーン購入推進	・グリーン購入マーク製品減少の影響から、購入比率は約40%強で留まる	
⑥事業所緑化の推進	・阪神営業所の屋上緑化、桑名営業所のフェンス緑化などを実施	
⑦助成金活用による省エネ設備導入の促進	・助成制度の調査を実施	
⑧デジタコを活用したエコドライブの徹底	・デジタコによる運転評価基準を見直し、2009年度より改訂	
⑨廃棄物リサイクルガバナンスの全国展開	・廃棄物分別、リサイクルの教育、指導によりガバナンス体制推進部門を拡大	
⑩省電力化の推進	・倉庫拠点の電力使用分析、自動販売機の省エネ型への転換を実施	
2. 環境に貢献する事業サービスの推進		
①グリーン物流の推進	・グリーン物流パートナーシップ事業の活用。奈良支店等が助成金を受け実施	
②社会貢献活動の推進 ・子ども交通安全教室の開催 ・事業所周辺の美化推進	・全国6箇所で開催 (茨城、柏、三重、京滋主管、延岡の各支店、及びクレフィール湖東) ・各事業所ごとに隣接する公道の清掃を実施	

環境影響の全体像

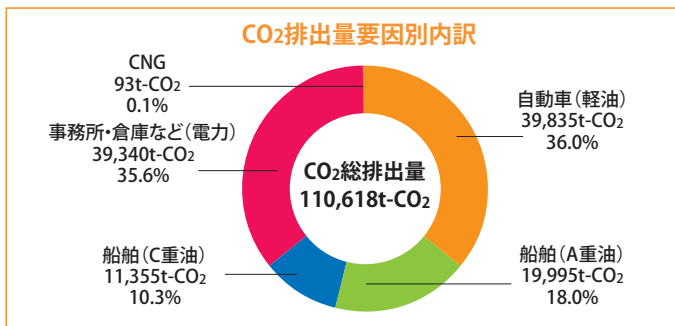
センコーは、事業活動に伴い発生する環境負荷を可能な限り把握するために、資源やエネルギーの使用量[インプット]と、CO₂や廃棄物の発生量[アウトプット]を数値化し、事業活動全体を通しての環境負荷の抑制と削減に努めています。



INPUT	
軽油	15,209 kL
重油	11,187 kL
電力	70,882,407 kWh

OUTPUT	
CO ₂ 排出量	110,618 t-CO ₂

CO₂排出係数は、2006年3月29日に改訂された地球温暖化対策の推進に関する法律施行令による。



CO₂排出状況について

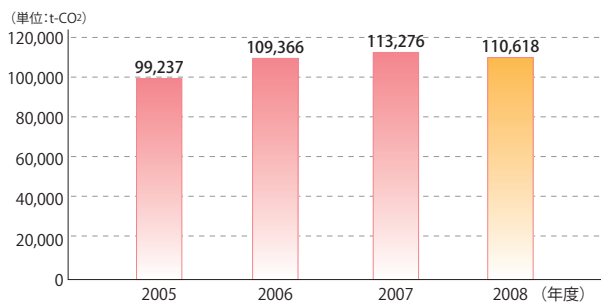
センコーは、事業活動で使用している自動車や船舶、事業所、倉庫などからの温室効果ガス(CO₂)排出量の把握に努めています。

2008年度に把握したCO₂排出量は、110,618t-CO₂で、対前年度比マイナス2.3%の2,658t-CO₂減少しました。

主な要因は、貨物自動車の燃料である軽油については、貨物自動車の台数の減少(対前年度末在籍台数でマイナス3%)による使用量の減少と、デジタコ装着の拡大、エコドライブの推進による燃費向上(対前年比1.5%)があります。また電力については、新設倉庫の稼動開始は有りましたが、オフィス、作業場等賃貸物件拠点における管理権原の無い一部テナントの電力使用量を把握対象外としたことや倉庫の

稼動減少などから電力使用量が減少(対前年比マイナス2.7%)したものです。

■年間CO₂排出量の推移



環境活動報告

地球温暖化防止への取り組み

CO₂排出量削減への取り組み

■ デジタル式運行記録計の導入を推進

センコーグループでは、燃料消費やCO₂排出量を抑制する省エネ運転方法(エコドライブ)を推進しています。2008年度もタコグラフ(運行記録計)のデジタル化を推進した結果、グループ総台数約2,200台中、約1,800台(全体の約8割)の車両への装着が完了しました。

デジタコにエンジン回転数上限などの上限値を設定し、超過時に警告音を発するとともに運転状況を点数評価することで、ドライバーへ省エネ、安全運転を促しエコドライブを推進しています。2008年にはこの評価基準値の見直しを行いました。今後さらなるエコドライブの徹底を進めていく考えです。



デジタコ車載機本体



デジタコハンディターミナル

■ 蓄冷式クーラー導入テストの実施

アイドリングストップによる燃費向上を求めて、2008年度盛夏に蓄冷式クーラーの効果確認テストを実施しました。蓄冷式クーラーとは夏期の長距離便の車中仮眠時、荷の積み下ろし待ちや車内休憩時にエンジン停止状態で使用可能なトラックキャビン用のクーラーです。長距離仮眠時と車内休憩で試用し、真夏でも快適に車内待機できることが確認できました。また、アイドリングストップによる燃料節減によるCO₂削減や費用対効果も確認し社内導入を進めています。



車載エアコンの代替となる蓄冷式クーラー

■ 省燃費タイヤの導入

2007年度に実施した省燃費タイヤの効果確認テストについて、より詳細な効果検証をするため、燃費計を装着した複数の事務所の車両で装着テストを行いました。同じ車両で汎用タイヤと省燃費タイヤを履き替えて比較計測した結果、高速道路の走行が一定以上あるなどの条件下では省燃費効果が確認できました。

この結果から効果の見込める高速道路使用率などの条件を設定し、2009年度より省燃費タイヤの装着を社内展開し、装着を拡大することで燃費向上を図っていきます。

■ 低公害車を積極的に導入

貨物用自動車では20台をCNG車やハイブリッド車など低公害車へ代替し、2009年度期首のグループ全体の在籍数は39台になりました。2009年度末は在籍64台、4トン車以下車両に対する在籍比率9.3%を目標に、順次計画的に低公害車へ代替を図っていきます。

フォークリフトについても、NO_xの排出量低減につながるバッテリー式の低公害車を導入し、フォークリフト全体に対する低公害車の在籍比率は2008年度末において65%となっています。

また「業務連絡などに使用する乗用車」については、セダンタイプの車種では一部特殊な用途の車両を除くと大半がハイブリッド車への転換が進みました。

低公害車在籍数及び導入計画(トラック)

		低公害車		
		センコー	関係会社	合計
2008年度	期首在籍	9	28	37
	期中 増	3	17	20
	期中 減	2	16	18
	期中増減	1	1	2
2009年度	期首在籍	10	29	39
	導入計画	8	17	25
	期末在籍	18	46	64



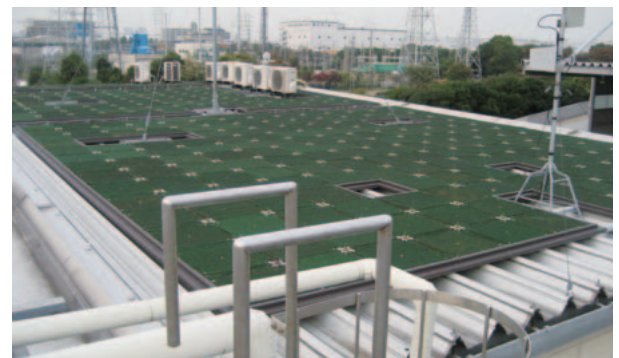
CNG車



低公害フォークリフト

■ 事業所の緑化

身近なところから取り組める地球温暖化防止活動として、事業所の緑化を進めています。2008年度は、阪神営業所の屋上緑化、桑名営業所のフェンス緑化及び奈良第3PDセンターへの植樹を実施しました。CO₂排出企業として今後も、環境負荷低減のために年次計画を作成して継続的に取り組んでいきます。



阪神営業所の屋上緑化

物流効率化への取り組み

グリーン物流パートナーシップへの取り組み

CO₂等の温室効果ガス排出量の抑制・削減を図ることを目的に、荷主企業と物流事業者の協働・連携による取り組みを支援しているのが、「グリーン物流パートナーシップ会議」です。センコーは、経済産業省、国土交通省等が推進するこの会議にも参加し、荷主様と共に知恵を出し合い協働することで、より高いレベルの物流効率化・環境保全活動を推し進めています。

みんなで地球にやさしい物流を



グリーン物流パートナーシップ

積水化成品工業株式会社様の倉庫拠点集約事例

積水化成品工業株式会社様の「発泡プラスチック」を、従来当社の3ヶ所の倉庫に分散保管していましたが、これらの輸送拠点を、新たに建設した奈良第3PDセンターに集約。拠点を1ヶ所にし、工場から倉庫までの輸送距離を短縮することでトラック燃料の削減による環境負荷低減が図られました。

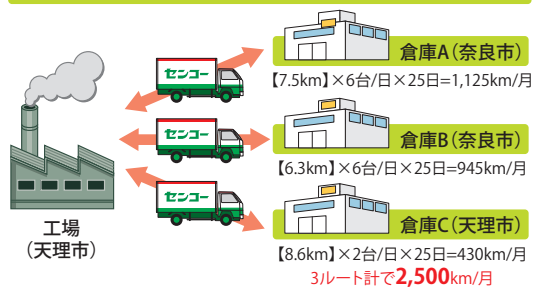
輸送の効率化と環境負荷の低減が図れることから、センコーでは「荷主企業と物流事業者のパートナーシップにより実施される物流の改善方策を通じて、排出されるCO₂の削減効果が明確に見込まれるものであること」との条件を持つ「グリーン物流パートナーシップ普及事業」の設備導入の助成制度利用を計画し、積水化成品工業株式会社様などと共同で応募しました。その結果、2008年8月に助成実施機関のNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)より、設備の一部について助成を受けることが決定し、2008年12月から事業を開始しています。

この取り組みにより、現状比較で省エネ率42%程度、原油換算省エネ量3.9klの削減が見込めます。

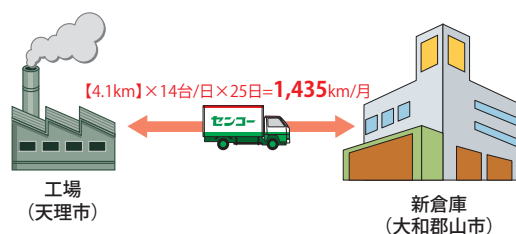


完成した奈良第3PDセンター

【集約前】 拠点(倉庫)が3ヶ所に分散



【現在】 拠点(倉庫)を集約し、輸送距離の削減による省エネを実現



工場～各倉庫間の年間延べ輸送距離=30,000km → 拠点集約後の工場～新倉庫間の年間延べ輸送距離=17,220km **約42.6%の削減**

VOICE お客様の声



積水化成品工業株式会社
天理工場 工場長
南文一様

拠点集約により、物流のCO₂排出原単位を大幅に削減

地球規模での環境保全は今、社会的にも大きな課題となっています。弊社では、循環型社会の構築を目指して次世代に引き継ぐことが企業の社会的責任であると考え、主力製品である省資源素材「発泡プラスチック」を通して、社会と地球の持続的発展に貢献していく企業活動を進めています。

2007年度は設定した環境負荷低減目標のほとんどを達成しましたが、物流のCO₂排出原単位が生産品種の影響により増加してしまいました。これを受け、2008年度は特に物流のCO₂排出に注力して改善を進めていたところ、センコー様より奈良第3PDセンターに弊社製品を集約するというありがたいお話がありました。同センターに集約していただくことにより、今まで3ヶ所の倉庫を並行利用していたのと比べ、工場から倉庫までの輸送距離の短縮や、集配作業の効率化が可能となります。その結果、物流のCO₂排出原単位を大幅に削減できるものと確信しています。

これからも、物流パートナーであるセンコー様のご協力をいただきながら、このような取り組みを積極的に展開させていきたいと思っています。

環境活動報告

環境関連法令・規制への対応

省エネ法への対応

省エネ法は正式には「エネルギーの使用の合理化に関する法律」と呼ばれ、1979年に産業の省エネルギー化を進めるため制定されたものです。その後何度も改正によりその対象が拡大されてきています。

そうした中、2006年4月の法改正により、貨物の輸送を年間3,000万トンキロ以上行う荷主と、一定規模以上の輸送能力を有する輸送事業者も対象とされることになり、中長期の省エネ計画の策定、エネルギー使用量等について年次の定期報告が義務づけられました。この改正は、京都議定書における日本の目標達成に向け、日本の排出量全体の約2割を占める「運輸部門」への取り組みを強化するために施行されたものです。

センコーでは、2006年の法令改正に伴う対応を以下のように執り行っています。

■ 物流業者への法的要求事項とセンコーの対応

センコーは一定規模以上の輸送能力を有する輸送事業者（特定輸送事業者）に該当し、その中でも、事業用自動車の貨物輸送の基準から「特定貨物輸送事業者」と指定されました。特定貨物輸送事業者に求められている事項、及び当社の対応は右の通りです。

(1) 取り組むべき省エネ対策事項抜粋

- ① 低燃費車両等の導入
- ② 運転者教育、デジタル式運行記録計の活用によるエコドライブの推進
- ③ 共同輸配送の実施等による積載率向上、帰り荷の確保
- ④ 車両情報システムの利用等による車両運用で空車走行の縮減

(2) 届出・報告事項

- ① 特定輸送事業者の指定に係る輸送能力の状況に関する届出（初年度のみ）
 - ② 特定輸送事業者の中長期省エネ計画（毎年）
 - ③ 特定輸送事業者の定期報告（毎年）
- ※その他「定期報告事項」が設定されています。

■ 荷主への情報提供状況

一定量以上の貨物の輸送を行う荷主（特定荷主）については、貨物の輸送に係る省エネ計画策定と年次の定期報告が義務づけられ、輸送に係るエネルギー使用量の把握を求められています。この把握に際し、より正確なエネルギー使用量推計のために、輸送事業者へデータ提供を要請される場合には、センコーとしては、データ内容や頻度から可能な限りにおいて、情報提供させていただきます。

自動車NOx・PM法及び関連法規、条例等への対応

大気環境の改善を図るために、大阪府では2009年1月より、自動車NOx・PM法の排ガスの基準を満たさないトラック・バス等の対策地域への流入を制限する運行規制を実施しています。対象となる37市町を発着地として対象自動車を運行する者は、車種規制適合車等を使用する必要があり、大阪府が交付する適合車等標章（ステッカー）の表示が義務づけられています。センコーグループでは法令・条例の改正に対応するために、荷主・行政等と連携した取り組みを進めています。

■ 大阪府条例への対応

対象者	要求事項	対象部署	対処方法
対象自動車 運行する者	① 対策地域を発地、着地とする運行をする場合、自動車NOx・PM法適合車を使用する	・全自動車事業所	① 車種規制適合車の使用 ・(直営) 大阪府規制対象地域方面へ車種規制適合車以外が配車されないように配車板などに明示することで明確化する ・(協力業者) 大阪府内へ運送を委託する場合、車種規制適合車を使用するよう要請する
	② 適合車等標章（ステッカー）を表示すること		② 大阪府規制対象地域への運送に使用可能な車種へ大阪府指定のステッカーを貼付する
荷主等	① 車種規制適合車等の使用の求め	・大阪府内から、または大阪府内へ廃棄物を収集運搬業者に運搬委託する事業所	① 適合車使用の求め ・廃棄物収集運搬業者、主要物品購買先から誓約書を提出させる ・廃棄物収集運搬業者、主要物品購買先へ文書で要請 ・収集運搬業者、購買先が委託する配送業者の配送車を登録させる
	② 車種規制適合車等が使用されたことの確認及びその結果の記録	・大阪府内で購買物品等の配達をさせる事業所	②-1 確認 ・事前配送車両登録の場合は必ずしも必要ではない ・宅配便等最寄の配送拠点からの配送は不要 ・荷受受付簿などに社名、車番、車種規制適合有無を記載させる ②-2 記録 ・車種規制非適合車の社名、車番、運転者名を記録
特定運送事業者	○ 知事への措置等の報告	・センコー(株) ・大阪センコー運輸整備(株)	○ 毎年6月に大阪府知事への措置等の報告 ・車種規制適合車等の使用を確実にするために前年度実施した措置、当年度実施する措置
特定荷主	○ 知事への措置等の報告	・センコー(株)	○ 毎年6月に大阪府知事への措置等の報告 ・車種規制適合車等の使用の求めの概要 ・車種規制適合車等の使用確認の結果の概要
施設管理者	○ 施設へ出入りする者へ車種規制適合車等の使用しなければならないことの周知	・大阪府内事業所	○ ポスターの掲示等による周知

環境認証取得の状況

ISO14001認証取得への取り組み

センコーでは、環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」認証取得をしています。

ISO14001認証範囲の事業所名

2009年4月6日現在

認証範囲事業所名
名古屋主管支店(中部営業部を含む)
名古屋営業所
金沢営業所
小牧支店(小牧営業所を含む)
大口PDセンター
静岡東支店(富士車輛営業所を含む)
新富士PDセンター
西富士物流センター
三重支店(三重輸送センターを含む)
三協貨物株式会社平田支店



ISO14001認証登録証

環境監査

ISO14001認証取得の事業所では、環境活動の実施状況の点検のため、資格を持った社内の監査員による内部環境監査を年に1回、外部審査機関(JQA)の審査員による審査を年に1回受けています。内部監査や外部審査で指摘を受けた事項については、真摯に受け止め、速やかに改善を図っています。

2009年1月に実施された外部審査機関(JQA)による定期審査においては、結果1件の指摘事項があり、所定の期間内に是正を図りました。また「改善の余地がある」とされた事項についても、各事業所で改善に取り組んでいます。



外部審査機関による定期審査

グリーン経営認証の推進

「グリーン経営認証制度」とは、国土交通省が所管している「交通エコロジー・モビリティ財団」が推進する、地球環境に優しい活動を行っている企業の事業所を認証する制度です。具体的な環境保全項目を明らかにし、一定レベル以上の取り組みを行っている事業者を審査の上認証して登録する仕組みで、事業所毎に環境目標を設定し評価を受けることができます。

センコーグループでは、この制度の対象とされている「自動車事業所」と「倉庫事業所」の全社的認証取得を目指しています。順次各事業所の認証の準備と申請を行い、認証取得を全社的に拡大していきます。

グリーン経営認証登録事業所(2009年3月31日現在)

〈トラック運送事業〉

柏支店	柏車輛係
千葉支店	車両センター
神奈川支店	東扇島車輛センター
関東住宅支店	厚木躯体センター
京滋主管支店	栗東営業所
京滋主管支店	守山PDセンター
中四国ロジスティクス(株)四国冷凍運輸倉庫事業部高松配送センター	

〈倉庫業〉

柏支店	柏第1PDセンター
東京主管支店	舞浜PDセンター
東京主管支店	平和島PDセンター
東京主管支店	京浜PDセンター
東京主管支店	市川ファッショロジスティクスセンター
神奈川支店	東扇島PDセンター
神奈川支店	東扇島物流センター
関東住宅支店	厚木住宅資材センター
千葉支店	千葉物流センター



グリーン認証を取得した千葉車輛センターのトラック

安全活動報告

安全活動方針

全てに優先する「安全」の維持に向けて

より徹底した安全確保への取り組みとして、センコーグループは「重大事故ゼロ」を目標に掲げた活動を進めています。グループ全体の安全性をより高めるため、2006年10月に新たな「安全方針」「安全向上のための6つの重点施策」を策定し、安全活動を推進する「安全管理責任体制」を構築しました。また貨物自動車運送事業法改正に合わせ、安全に関わる情報をホームページで公開しています。

<http://www.senko.co.jp/environment/transport/>

安全理念

「人間尊重」と「全てに優先する安全」の精神のもと、『完全0災職場を確保』を実現する。

1. あらゆる事故・災害は防止することができ、また防止しなければならない。
2. 管理者は従業員の安全に対する責任を負う。
3. 全従業員が「あらゆる事故をなくするのだ」ということを信条にしなければならない。
4. 安全は高品質と高生産性を確保する。

安全方針

基本姿勢

- 私たちセンコーグループは、物流事業の社会的使命を深く認識し、事業活動における安全確保が事業経営の根幹であることを、当社のために働くすべての人が正しく理解し、安全の向上に寄与する取り組みを推進する。
- 経営トップは、現場からトップまでが一体となって事業活動における安全の確保と安全性の向上に努めるよう積極的に主導する。

行動指針

1. 安全マネジメントシステムと安全衛生活動の継続的な改善を推進し、事故・災害防止と安全リスクの低減に努める。
2. 安全衛生に適用される法規、条例、協定および同意するその他の要求事項を遵守する。
3. 安全・衛生活動に関する情報について積極的に公表する。
4. この安全方針を達成するため、目的、目標を設定し、当社のために働くすべての人に周知し、理解と安全意識の向上をはかる。また、社外に安全方針を公開し、理解と協力を得る。

安全向上のための6つの重点施策

1. 事業における安全の確保が最も重要であるという認識を徹底し、関係法令及び安全管理規程に定められた事項を遵守する。
2. 安全に関する費用支出及び投資を積極的かつ効果的に行うよう努める。
3. 安全に関する内部監査を行い、必要な是正措置又は予防措置を講じる。
4. 安全に関する情報の連絡体制を確立し、社内において必要な情報を伝達、共有する。
5. 安全に関する教育及び研修に関する具体的な計画を作成し、これを確実に実施する。
6. センコーグループ全体の安全性が向上するように、一丸となって安全確保に努める。

安全目標

センコーは、「安全を全てに優先させる」考えを徹底し、グループをあげた危険予知活動を展開して、不安全状態・不安全行動を排除しリスク低減を図っています。

2008年度は、重大事故については2007年度と同様に「ゼロ」を達成し、交通事故についても目標を達成しました。このことは、事業所毎に「重大リスク」を特定(全社延べ424項目)し、これらのリスク低減に取り組み、得られた成果です。

グループ全体の安全目標

- 重大事故ゼロ
- 重大災害ゼロ
- 車両事故、労働災害とも、
2005年比15%削減

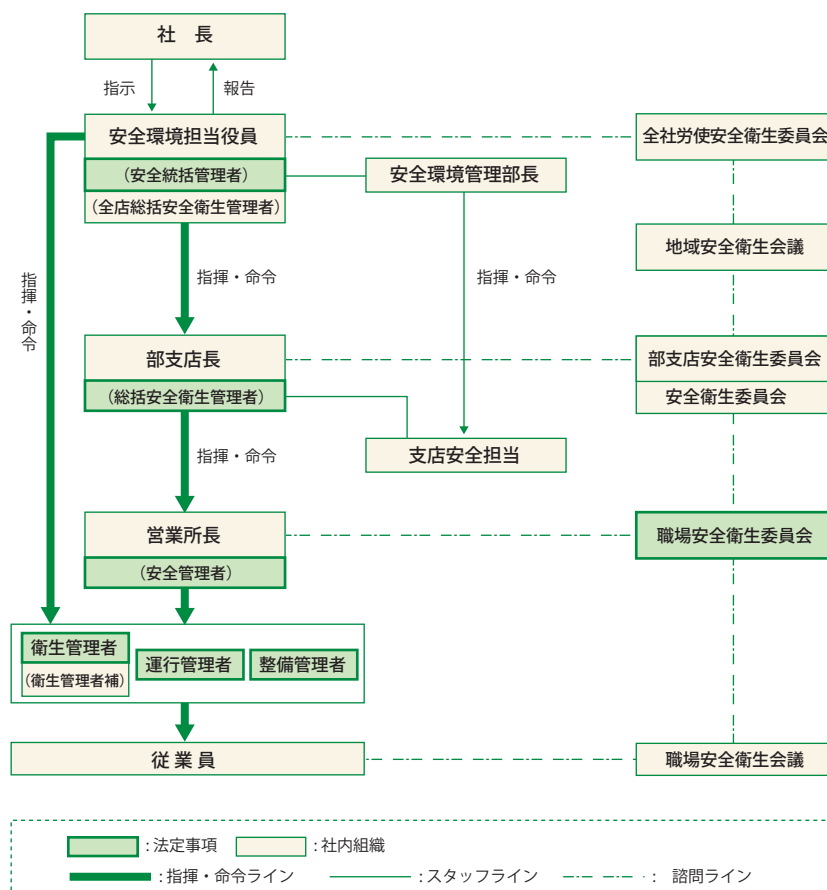
達成状況

	2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	
重大事故	0	0	0	0	0	0	0	
交通事故	28	26	26	25	25	23	14	
	—	2005年度比 ▲5%		2005年度比 ▲10%		2005年度比 ▲15%		

独自の「安全マネジメントシステム」を構築

センコーでは、リスクマネジメントの考え方を取り入れた、独自の「センコー安全マネジメントシステム」を構築し、安全水準の向上を図っています。このシステムでは、現場からリスクや課題を抽出し、それを組織のトップによるシステムの再構築、さらには日常の安全活動の改善へとつなげる仕組みを実現しています。トップダウンとボトムアップを融合させたマネジメントシステムによって、より現実的に即した安全活動と、継続的な安全水準の向上を可能にしています。

安全維持組織体制



安全活動報告

安全管理への取り組み

日常の安全活動の取り組み

日常的な点検や安全活動の着実な積み重ねが事故防止につながると考え、様々な安全管理を実践しています。

またデライト(昼間点灯)活動や「HHK(ヒヤリ・ハット・気がかり)」活動、「こだわり運転3・5・5運動」(前車から3秒以上の車間を取る、停止線の5cm手前で停車、前車と5m以上の間隔を空けて停車する)など、潜在的リスクの低減を図るセンコー独自の安全活動を継続しています。

■KY(危険予知)活動の強化

センコーは、KY活動により危険の芽を発見できる、危険感受性の高い従業員を育成しています。その手段の一つとして、ドライバー及び関係者全員を対象に、KYシートを使用したKYトレーニングを日々の運行前・作業前に実施し、その日の行動に活かしています。



KYトレーニング

センコー流呼称運転項目	
運転場面	呼称項目
1 発進	後方ヨシ(3秒前)・後方ヨシ(直前)・前方ヨシ
2 左折	左後方ヨシ・巻き込みナシ・歩行者ナシ
3 右折	前方ヨシ・歩行者ナシ
4 後退	後方ヨシ(3秒前)・後方ヨシ(直前)
5 側方通過	間隔2mヨシ・後方ヨシ
6 横断歩道	横断歩道注意!
7 上空障害	上空ヨシ
8 踏切	右ヨシ・左ヨシ・音ナシ・前方ヨシ
9 車線変更(左)	左後方ヨシ・左ヨシ
10 車線変更(右)	右後方ヨシ・右ヨシ(直前)
11 信号・標誌	青ヨシ・黄注意(停止)・赤停止!

安全活動啓発ポスター



■朝礼時の健康点検

就業前のドライバーの体調チェックは、事故を未然に防ぐためには不可欠です。ドライバーの健康を維持し安全業務を遂行するため、各事業所で毎日の朝礼時に、血圧測定、アルコールチェッカーでのアルコール濃度測定、腰痛防止のためのストレッチ体操を行っています。



腰痛防止のためのストレッチ体操



血圧測定機での血圧測定

安全関連法令の遵守対応

センコーは、「事業における安全の確保が最も重要である」という認識を徹底し、関係法令及び安全管理規程に定められた事項を遵守することを重点施策の一つに掲げ、安全向上に努めています。

■立会い点呼の100%実施による安全確保

運行管理者をはじめとして、運行管理補助者を活用し、立会い点呼の100%実施に取り組んでいます。運行管理者や運行管理補助者立会いのもと、出発時の健康チェック・運行指示、帰着時の結果報告を執り行うなど、法令を遵守した安全管理を実施しています。



運行管理者による立会い点呼

充実の安全教育

「強い現場」・「卓越した現場」をつくる人材教育体制

センコーでは、自ら革新していく「強い現場」、そこから新しい価値を創造できる「卓越した現場」をつくることのできる人材の育成に力を注いでいます。

全ての研修に、改善・革新をテーマとしたカリキュラムを導入し、各地域の現場に革新をもたらすリーダーの養成を目指します。また教育対象を協力会社や派遣・パート社員にまで広げ、センコー流を徹底させます。

■ 新人教育システムの構築

現場を担う“プロ”の人材を育成するために、新人教育においては、2007年4月から、トラックドライバー及びフォークリフトオペレータを対象とした「乗務認定制度」の運用を開始しました。この「乗務認定制度」では、プロの基礎となる技能を身につける教育課程の中間と最終段階に認定評価を受けることが義務づけられ、2段階の認定評価を経てはじめて、プロとして独り立ちすることが認められます。

これらの評価は、各地域に配置された安全運転トレーナーまたはリフト技能トレーナーにより行われます。

【新人教育システムの流れ】(ドライバー)(オペレータ)



新人ドライバー VOICE

南九州センコー(備後)車輦センター
獄本直 社員

技能職からドライバー職へ職種転換し、安全運転トレーナーよりセンコー流の基礎技能習得、安全運転、安全作業そしてセンコーマンとしてのマナーまで厳しく指導していただき、乗務認定を受けることができました。教育期間中、トレーナーが夢に出てくることもありましたが、プロドライバーとしての基本を学び、人としても成長できた実感しています。今後も指導していただいたことを日々実践し、自分を向上させ、無事故で頑張っていきたいと思っております。

■ 業態別技能訓練の実施

クレフィール湖東の物流教育ゾーンでは、センコーのコア事業の一つであるローリー輸送の物流技能訓練を行っています。

顧客に選んでいただけるプロ集団を創るために【ローリー輸送テクニカル制度】を構築し、ローリー輸送に特化した物流ノウハウや地域固有の製品輸送技術を水平展開することで最高レベルのサービスを提供できるよう、ローリー輸送従事者を対象に訓練を実施しています。



ローリーテクニカルコース養成訓練

■ トレーナー制度の採用

センコーでは、クレフィール湖東など訓練施設でのOFF/ITで学んだセンコー流基礎技能を、各支店や職場の現場で実践指導する地域リーダー(トレーナー)を支店毎に任命し、センコー流の定着化及び現場力の強化を図っています。

「センコー流」とは、あいさつ、指差呼称の仕方から車両点検・整備、運転・操作方法まで、40以上の項目に厳しい評価基準を設けた行動規範・技術基準で、センコーの安全性向上・人材教育の指針となるものです。トレーナーはその指導者として、センコー流を前進させる役割を担います。

2009年4月1日現在、33部支店に安全運転トレーナー30名、リフト技能トレーナー42名、また、関係会社28社では安全運転トレーナー17名、リフト技能トレーナー1名が配置されています。

トレーナー配置状況

(人)

任命時期		安全運転トレーナー		リフト技能トレーナー	
		部支店	関係会社	部支店	関係会社
2005年任命	キャリア	4	1	9	0
2006年任命	キャリア	6	0	11	0
2007年任命	3期生	11	1	9	0
2008年任命	4期生	3	8	8	0
2009年任命	5期生	6	7	5	1
合計		30	17	42	1
		47		43	

※2010年度任命予定の6期生は、安全運転トレーナー15名、リフト技能トレーナー14名となります。

■ センコー流指導マニュアル『虎の巻』発刊

2006年度より、社内報「あぼろ」にセンコー流基礎技能(ドライバー/オペレータ)を掲載しています。2008年度には、服装・マナーを含めた態度編を掲載しました。

さらに2009年4月には標準化された現場教育の指導マニュアルとして、日常現場・地区での教育訓練に活用できる『虎の巻』を発刊しました。これは社内報に掲載された内容を見直し、指導要領ガイドとして作成したもので、「卓越した現場づくり」のツールとして、その内容はセンコー流の項目追加・充実にあわせて継続的に追加、修正していきます。



安全活動報告

安全活動の評価・達成状況

「外部」からの評価・表彰

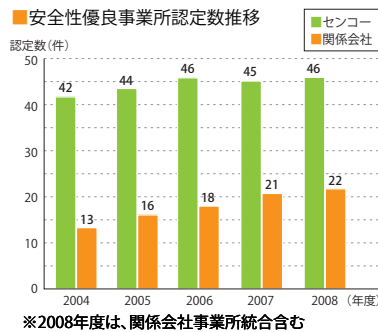
センコーの安全活動は、2007年11月に国土交通省の安全評価を受けるなど高い評価をいただいています。運転技術・技能の向上を目指す外部コンテスト等にも積極的に参加。安全を守り、社会から評価される取り組みに今後も力を注いでいく考えです。

■「安全性優良事業所」の認定取得

センコーは、全事業所の「安全性優良事業所認定」取得を目指しています。安全性優良事業所とは、(社)全日本トラック協会(国土交通省指定)が事業者の「安全性に対する法令の遵守状況」、「事故や違反の状況」、「安全性に関する取り組みの積極性」において、評価基準に基づいて点数化し認定するもので、センコーでは2003年度から取り組みを開始。2009年2月現在、46事業所及び関係会社22事業所が認定を受け、センコーで94%、グループ全体で43%の事業所が認定を取得しています。



認定証



TOPICS

2名が「ゴールドマイスター」に認定

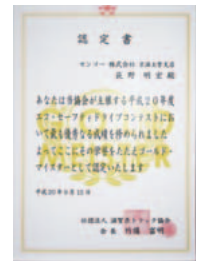


荻野 明宏社員



田村 広和社員

より安全で人や環境に優しいエコドライブの技術を競う(社)滋賀県トラック協会主催の「エコ・セーフティードライブコンテスト」(2008年9月開催)に出場。京滋南支店の田村広和社員、京滋主管支店の荻野明宏社員が優秀な成績を収め、2008年9月15日に「ゴールドマイスター」の称号を受けました。



ゴールドマイスター認定証

■外部団体・お客様からも高い評価

各支店・事業所においても、センコーは安全を守る取り組みを徹底しています。また従業員個々の高い安全意識・技能は、多くの外部団体・お客様から評価され信頼を得ています。

支店・事業所表彰

■山台主管支店 山台ハウス営業所(3年間無事故・無違反で宮城県警察本部「金賞」)■埼玉主管支店(自動車安全運転センター・埼玉県事務所より「優秀安全運転事業所表彰」)■神奈川支店、千葉支店、三重支店、倉敷支店、広島支店、北九州支店、国際物流事業本部、海運部(物流トラブルを大幅に削減し、日本ポリケム(株)様より感謝状)■小牧支店(旭化成ケミカルズ(株)様第5回物流安全大会で、継続的な品質向上に「安全成績優秀賞」)■三重支店 三重輸送センター(三菱化学物流(株)様「無災害を5年間継続」表彰)(鈴鹿市交通安全都市推進協議会「交通安全功労団体」表彰)■京滋主管支店 物流センター大門(安全・安心改善活動発表に、積水化学工業(株)滋賀栗東工場様より「優秀賞」)■大阪主管支店 寝屋川IPDセンター(品質向上に対しエコラバ(株)様より感謝の盾)■岡山支店 西大寺出張所(第12回事故防止コンクールで、日本路線トラック連盟中国地区連盟より「局長表彰」)(中国積水工業(株)「KY発表会」で、誤出荷・欠品の大幅削減活動を発表し優勝)(岡山県自動車安全運転センターより銅賞)■滋賀センコー運輸整備(株)(ダイキン工業(株)様との混合チームが同社「第22回全国物流サービス向上研修発表会」で最優秀賞・功労賞)■南九州センコー(株)(熊本県高圧ガス保安協会会長表彰)■クレフィール湖東(株)(滋賀県安全運転管理者協会「金賞」)

個人表彰

■茨城支店 壬生出張所 醍醐 三郎(異なる製品の混入を発見、旭化成カラーテック(株)様表彰)■三重支店 三重輸送センター 勝呂 哲(木片混入を発見、PSジャパン(株)様感謝状)■千葉支店 千葉物流センター 鈴木 啓一・川端 一之(不良等品質クレーム防止に住友化学(株)千葉工場様感謝状)■九州主管支店 福岡PDセンター 高橋 英明・田崎 舞(「第27回自衛消防隊操法大会」優勝)■名古屋主管支店 富山営業所 三木 栄二(全国トラックドライバーコンテスト富山県大会11トン部門2位入賞)■千葉支店 千葉物流センター 福田 義秀(出光千葉安全協議会「優秀安全功労賞」)■山口支店 山口ハウス営業所 守田 雄樹(全国トラックドライバーコンテスト山口県大会11トン部門優勝)■千葉センコー運輸整備(株) 鳥海 靖人(塩ビ製品の粉漏れを発見、住友化学(株)「物流品質事故防止表彰1級」)■千葉支店 千葉物流センター 宮城 高都(印字不良を発見、住友化学(株)「物流品質善行表彰」)■名古屋主管支店 富山営業所 大坪 一夫・光地 和美(富山県射水市消防本部主催「消防技術競技会」消火器取扱競技部門優勝・敢闘賞)■京滋主管支店 守山PDセンター 西澤 豊(国土交通大臣より事業用自動車運転者表彰)■南九州支店 宮崎営業所 正中 大志・佐藤 茂夫(「JA荷卸コンテスト」の白油・黒油部門優勝)■茨城支店 宇都宮流通センター 米元 勝巳(コスモ石油プリカンツ(株)様無事故・無災害表彰)■神奈川センコー運輸(株) 佐藤 進(機器異常発見により異物混入防止、旭化成ケミカルズ(株)合成ゴム製造部様「品質感謝状」)他



TOPICS

製造ミスを未然に防ぎ、感謝状を授与

大久 薫社員

旭化成ケミカルズ(株)様の原料受発注業務を受託している神奈川支店 川崎営業所 デリバリーセンターのグループリーダー大久 薫社員がお客様の発注ミスを発見、製造ロスの発生を未然に防いだことで、2008年11月17日同社より感謝状を授与されました。

安全品質・技能向上の取り組み

センコーでは、大会への参加や表彰を通して、運輸業のプロとしての安全・品質に対する意識、技能の向上を目指すとともに、ドライバー及びオペレーター個々のやる気の創出につなげています。また、各部支店、関連会社がドライバーを対象に様々な表彰を行っています。

■ 社外技能コンテストに参加

(社)全日本トラック協会が主催する「全国トラックドライバーコンテスト」にも、毎年参加しています。

2008年の第40回大会では、各地域大会を勝ち抜いたセンコーのドライバー6名が出場し知識や技能を競いました。松下社員が11トン部門で5位入賞し、首藤社員が会長特別賞を受賞しました。

また、陸上貨物運送事業労働災害防止協会主催の「全国フォークリフト運転競技大会」に2名出場しました。

全国トラックドライバーコンテスト大会

コンテスト参加結果				
年数	地区出場者	出場者数	入賞者数	順位
2005年度	35	7	2	2位、3位
2006年度	37	8	1	2位
2007年度	47	11	0	—
2008年度	54	6	2	5位、特別

全国フォークリフト運転競技大会(2008年度)

部門	地区大会出場者	全国大会出場者
カウンター	66	2
リーチ	6	—
合計	72	2

■ 無事故・無災害表彰

長年にわたり無事故・無災害を継続した個人、事業所を表彰しています。2009年4月には無事故・無災害を合わせて29の事業所・関連会社を、7月には、218名の個人を表彰しました。

個人安全(無事故・無災害皆勤)表彰者

年数	無事故(人)	無災害(人)
35	0	0
30	2	0
25	3	6
20	11	39
15	23	24
10	41	11
5	12	15
3	2	29
合計	94	124

■ 全国トラックドライバーコンテスト大会



全国ドラコン競技風景



全国ドラコン競技(後退)



全国ドラコン競技(点検)

■ 入賞者・特別賞受賞者



11トン部門5位入賞者
松下 拓也社員



会長特別賞受賞者
首藤 祐三社員

■ 全国フォークリフト運転競技大会



全国フォークリフト運転競技(点検)



全国フォークリフト運転競技(運転)

■ 安全スローガン

TOPICS

啓発活動として、安全スローガンを募集

安全スローガンを、前年に引き続き全社で募集しました。その結果、2009年度は各部支店・関係会社で1次選考した結果566点の応募があり、社内で審査し、最優秀作1点、優秀作1点、佳作4点を選びました。応募件数は年々増加しており、安全に関する従業員の意識は向上を続けています。

最優秀作

『一人のヒヤリは皆のヒヤリ、
知って知らせたゼロ災害!』

社会性報告

働きやすい職場、豊かな地域社会を創造

快適な職場環境の創出

センコーでは、全ての従業員が生き生きと働くことができる職場を創る取り組みを前進させています。「センコー健やか活動」や「女性躍進・推進計画」の推進などもその一環で、より快適な環境を整えています。また企業市民として、様々なコミュニケーション活動を通じて、事業を行う地域の皆様の心豊かな暮らしに貢献したいと考えています。

「快適職場推進計画」の認定取得を継続

センコーは、従業員一人ひとりの健康と幸福を実現するために、快適な職場環境を整備し、心と体の健康を保持・増進する活動を行っています。

「快適職場推進計画」(中央労働災害防止協会)の認定取得に向けた継続的な取り組みは、その活動の一環です。2008年度までに、全232事業所の認定取得を完了いたしました。

「事業者が講ずべき快適な職場環境の形成のための措置に関する指針(快適職場指針)」(厚生労働省)に則ったこの認定を受けることは、労働安全衛生法の規定を守り、仕事による疲労やストレスを感じることの少ない快適な職場創りを推進している証になります。

TOPICS

産業安全衛生大会で、センコーの取り組み事例を発表



「埼玉産業安全衛生大会」の中で、快適な職場創りを推進する埼玉主管支店の取り組みを、「センコーの快適職場推進活動」事例として発表しました。

小森 清二 職長

事業所内保育園の設置

子育て中の女性も安心して働ける職場環境を創るため、2006年4月に大阪府泉大津市の泉北第2PDセンターに「センコー泉北保育園」を皮切りに、2008年春には浦和PDセンターと西神戸PDセンターに事業所内保育園を開設しました。

当社ではこれらの施設の運営を通して、「地域に根ざした、働きやすい職場」というイメージを定着させていきたいと考えています。



ハロウィンの様子



豆まきの様子



保育士が常駐する事業所内保育園

カフェテリアの設置

センコーでは、従業員が快適に利用できる食堂やカフェテリアを設けています。

2007年11月浦和PDセンターの厚生棟に「センコー浦和レストラン」、2008年3月には西神戸PDセンターに「レストランセンコーマリーン」を、また同年5月に市川ファッションロジスティクスセンター内に280席のカフェテリアをオープンしました。いずれも、職場内にあるため昼休みや休憩時間等に便利に利用でき、また栄養面にも配慮した豊富なメニューが揃っているため従業員にも好評です。



センコー浦和レストラン

健康管理活動の状況

■「センコー健やか活動」の実施、取り組み

職場全体で健康づくりを盛り上げ、従業員一人ひとりの健康保持増進と将来の疾病予防につなげることを目的として、2008年4月より「センコー健やか活動」を開始しました。

この活動をきっかけに、自身で掲げた目標に向け取り組んだところ「歩く習慣がついた」「食生活を意識するようになった」「禁煙した」など健康的な生活習慣を得たという声を聞くと同時に、健康に関する話題が増えたなどコミュニケーションも図られました。

2009年度からは家族の参加も募り、さらなる健康企業を目指します。



「センコー健やか活動」ポスター



健康プラン記録表への記入

■メンタルヘルスマネジメント研修

近年、社会問題になっているメンタルヘルス対策について、2008年度は管理職・安全衛生担当者を対象として5回傾聴実習を交えた研修を実施し、ラインケアの意識を高めました。

今後は、さらにきめ細かな活動を行い、早期発見、早期治療につなげるとともに予防に関する活動も推進していきます。



メンタルヘルスマネジメント研修
(九州地区)



メンタルヘルスマネジメント研修
(東京地区)

女性躍進・推進計画

『女性の活躍を企業価値の向上に結びつける労働環境の実現を図る』ことを目的に、『女性躍進・推進計画』を策定しました。この計画は、女性の活躍領域の拡大や男女を問わず働き続けられる環境づくりをめざしています。その一環として、2008年度は11～12月に全国5ヶ所で9回にわたり、女性正社員を対象に『わたし再発見!自分らしい生き方/働き方を見つけよう』をテーマとする研修会を開催しました。



各地の女性正社員研修会の模様
(東京会場)



(大阪会場)



参加者の感想

イサコ 砂金 清美 社員
茨城支店 茨城境営業所

今までは、自分の中での目標というものははっきりと考えたことがなかったのですが、今回の研修で、はっきりとした目標を持って毎日を過ごしていくことが大切なことだと学び、自分の掲げた目標に近づくように頑張ろうと思いました。

研修を終えて

講師 (株)ライフキャリアデザイン・アソシエイツ
森野 和子 先生



研修を通じて全国の元気な女性たちに出会いました。色々な悩みや課題を持ちながらも、自分らしく生きたい!働き続けたい!と願う方々です。改めて「自分のこと」を考えることによって、これからの自分の「ありたい姿」を見つけることができたのではないのでしょうか。

《キャリア》とは、「人生の役割の連鎖」だといわれています。仕事だけでなく、家庭、地域などで果たす色々な「役割」が全て自分のキャリアになります。各地の取り組みや課題を共有するためにも、今回のような研修は重要です、自分のキャリア形成に役立ちます。

女性がリーダーシップを身につけ、職場のリーダーを担うことを期待するとともに、今後とも女性の活躍推進のお手伝いができれば幸いです。



社会性報告

地域での社会貢献活動

「こども交通安全教室」の開催

センコーは社会貢献活動の一環として、未来を担う子ども達の安全を守る取り組みを行っています。2008年度はクレフィール湖東で開催した「こども交通安全フェスタ」を皮切りに、全国6地域で総勢281名の方に参加していただき、「こども交通安全教室」を実施しました。

各地域とも、クレフィール湖東のインストラクターや各営業所の安全運転トレーナー等が講師を務め、「右を見て、左を見て、さらに運転手の顔を見て確認して渡ると事故に遭わない」など、プロドライバーならではのアドバイスを提供。子ども達とその保護者に参加いただき、交通ルールを守ることの大切さを伝えるとともに、信号の色の識別や横断歩道の安全な渡り方、車の死角やシートベルトの必要性についてなど、交通安全の知識を楽しく学んでいただきました。

事業で培った交通安全のノウハウを地元に戻元することで、一人でも多くの子どもが危険を回避できることを願って、このような交通安全教育を全国的に展開して行きます。

茨城支店 [9月15日開催]



茨城PDセンターにて実施:35名が参加

京滋主管支店 [10月26日開催]



守山PDセンターにて実施:27名が参加

柏支店 [3月1日開催]



柏営業所にて実施:43名が参加

■ 実施内容

● 交通安全クイズ

クイズ形式で交通安全の知識を習得

● 見えるところ、見えないところ

保護者が車に乗り、車の死角を確認



● 横断歩道横断体験

横断歩道の安全な渡り方を実践



● トラックの怖さを知ろう

左折時の巻き込み危険を実演で表現

● トラックに乗ってみよう

助手席に乗り、トラックの高さやスピードを体験



VOICE 参加者(保護者)の声

- 子どもに車の危険性、信号機の重要性等を教えられたと思います。また、自分自身も車を運転する時の注意点を改めて認識することができ、有意義な時間を過ごせました。(K.Nさん)
- 交通安全について丁寧に教えていただいたので、改めて安全について考えなければいけないと思いました。特に、車での死角について、また横断歩道の渡り方など、子どもと一緒に機会が多いので気をつけていきたいと思います。(I.Tさん)
- 安全について「わかっているつもり」になっていましたが、意外に知らないことが多く、かなり参考になりました。特にシートベルトの必要性は実感させられました。(T.Aさん)

地域清掃活動を実施

センコーグループは、従業員一人ひとりが「良き企業市民」として、企業活動と生活の基盤である地域社会を豊かで暮らしやすいものとするために、地域や社会に役立つ活動を推進しています。

2008年度は、地域清掃活動として全国で延べ約2万人の人員が参加して、本社は近畿の重要な水源である淀川河川敷の清掃、支店は事業所に隣接する公道の清掃を実施しました。

以降も本業を通じて地域や社会に貢献する活動を継続して実施して行きます。



「クリーンアップなら」への参加活動

小学生の社会見学、中・高生の職場体験受け入れ

埼玉県では、2006年度から「埼玉の子ども70万人体験活動プログラム」という、児童・生徒を対象に地元企業で実務を体験しながら、社会性を身につけてもらう活動を推進しており、2008年度は当社蓮田営業所資材センターが選定されました。

10月16日からの5日間、県立蓮田高校の1年生2名が手作業による住宅資材製品の出荷作業と住宅ユニット据付現場見学を体験し、当社若手社員を中心に「就職すること、お金を稼ぐこと、生きていくこと」というテーマで開催した交流会にも参加してもらいました。

同様の趣旨で、2008年5月12日からの4日間、富山営業所で地元小杉中学の2年生4名が職場体験学習に挑戦し、茨城PDセンターでは2009年1月20日から3日間、地元高校生男女各1名のインターンシップを受け入れました。

また、2008年12月6日金沢営業所で、地元の小学5年生105名に農・水産物や工業製品がどのように運ばれるのかを実際に見て学んでもらう社会見学を実施しました。



蓮田高校・運動部の2名が資材センターでの作業に挑戦（蓮田営業所）



トラックターミナルで説明を受ける小学生（金沢営業所）



事務作業を体験する高校生（茨城PDセンター）



インターンシップのピッキング・検品作業風景（茨城PDセンター）



- 一つのピッキングミスや入力ミスが後で大変な損失につながるため、「確認することの大切さ」を実感しました。
- 男性ばかりの職場だと思っていましたが、女性がたくさん働いているのを知り、物流会社に魅力を感じました。

クレフィール湖東での社会貢献活動

■福祉施設への協力

クレフィール湖東では、地域の福祉施設と連携して福祉支援活動を積極的に展開しています。

地域にある共同作業所「和楽寮」の皆さんが制作された木工製品は、クレフィール湖東の土産物コーナーで販売していますが、手作りならではの温かい風合いがあり、お客様から大変好評をいただいております。その工芸材料は、クレフィール湖東敷地内の間伐材を無償で提供したものを活用していただくなど数年来の交流が続いています。

また、クレフィール湖東で分別したアルミ缶・スチール缶を彦根市のタンポポ作業所に寄贈し、リサイクル活動の収益金を施設の活動資金にいただくなど、積極的な交流が5年前より継続しています。

■「囲碁フェスティバル2008」の開催

クレフィール湖東の開設10周年を記念して実施した「囲碁フェスティバル」を、2008年度も引き続き開催しました。ゲストには前年に引き続き梅沢由香里女流棋聖と中島美絵子初段を招き、プロ棋士のお二人が来場者の対局を指導・解説する「指導碁」「囲碁クリニック」などのイベントを実施。来場した小学生からお年寄りまで約100名の囲碁ファンは楽しいひとときを過ごしました。

当フェスティバルは、地域の文化促進活動の一環として、今後も継続的に開催する予定です。



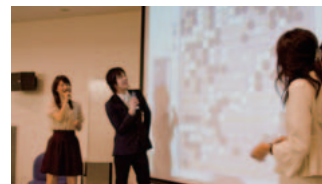
「和楽寮」の皆さんと動く木馬



共同作業所「和楽寮」での制作風景



対局を指導する梅沢女流棋聖



囲碁クリニックの様子

センコー株式会社

お問い合わせ先

センコー株式会社 CSR 推進グループ

〒531-6113

大阪市北区大淀中1-1-30-1300 梅田スカイビル タワーウエスト13F

TEL.06-6440-5190 FAX.06-6440-5198

URL <http://www.senko.co.jp>

ECO-PULP



エコパルプ



この報告書は、環境への配慮のため、用紙には無塩素漂白のエコパルプを、また印刷には大豆油インキを使用しております。

2009年8月発行

